Nov 1891
No. 292

女學雜誌

第二百九十二號
明治二十四年十一月廿一日發兌

女學史料
小公子を讀む　思軒居士
震地傳道隊
小公子の評　紫山人
繪畫道德

下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 292. NOVEMBER 21ST. 1891.

第二百九十二號目次

EDITORIAL:—Evangelical Band for the Place of Disaster.

CHILDREN'S COLUMN:—"Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

MISCELLANEOUS:—Two Songs in Connections with the Annual Meeting of the "Haishō Dōmei" Associations. Art and Moral.

OPEN LETTER:—To the Editor of the "Yomiuri".

HOUSEHOLD:—Questions and Answers on the Art of Sewing.

THOUGHTS AND FANCIES:—Between Issac and Rebecca. Lady of Disraeli. How to Acquire peace of Mind.

CRITICAL NOTES.

CURRENT NEWS.

NOTES AND NEWS:—

●社說　震地傳道隊
●兒籃　小公子
●雜錄　全國廢娼同盟會年會の歌二首(紫死山人)○給ふ道徳○女學志料
●開書　讀賣新聞記者に告ぐ(漂遊生)
●批評　無想劍を讀て○近世地理學○新誌一覽
●家政　裁縫試驗問答(渡邊辰五郎)
●隨感　イサク、リベカの愛○ヂスレリー夫人○安心の法
●時事
●女報

女學雜誌社取次書目

金森通倫君著	日本現在及將來之基督教	一冊	價二十錢
池袋清風君著	淺瀬の波	二冊	同三十錢
花房庸夫君著	明治女大學	一冊	同二十錢
松田敏足君著	女小學躾草	二冊	同四十錢
吉田利行君著	日本女子讀本	三冊	同三十九錢
香月恕經君著	女子文例	一冊	同二十五錢
安東松次郎君著	貧兒の教育	一冊	同六錢
湘煙女史著	善惡之岐	一冊	同三十五錢
安枝武雄君編輯	正義の反響	一冊	同十五錢
鈴木弘恭大人著	作文口授	一冊	同二十八錢
三島通良君著	母のつとめ	二冊	同七十錢
新保磐次郎君編	國文自在	一冊	同四十錢
坪谷善四郎君著	日本女禮式	一冊	同五十錢
木村駿吉君著	新編物理學	一冊	同六十五錢
元良勇次郎君著	心理學	一冊	同七十錢
鈴木弘恭大人著	國文抄	續出	同三十錢
三上參次高津鍬三郎君著	日本文學史	二冊	同一圓六十錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百九十二號 明治二十四年十一月廿一日發兌

社説

震地傳道隊

震災地の爲に取敢ず必要なる救助策は大方畢りたり。此上は當に其長計大策を畫すべきなり。堤防は速かに改築せざる可らず、然らずば、平年すら水害の恐ろしき尾濃州は遠からずして水中に沒すべし。道路は速かに改造せざる可らず、然らずば、物價暴騰し、一方にて與へたる固息細少の慈善の金は他方にて無益に奪ひ去らるべし。租税を免ずる事、町債を許す事、北海道移住の便利を與ふる事、學校の維持に助力する事。凡そ如此き遠大の計策は、政府、議會、縣會などの手に委任せざるを得ず。

此他に、最とも大切にして而して世人が忘却する所ろのものは、彼地の民情を一新し、其德義の根底を改築し、腐敗墮落せる東海道氣風を洗滌し去る事是れ也。

上帝を敬まはず、眞理を重んぜず、不義姦惡にして放埒遊怠に日を消す所ろの國民は、天の大なる義罰を免るゝと能はず。伊太利亞の侍仙叫びて曰く、不義の國民の頭上に臨みたる天の刄は、降るに於て最と優しく猶豫延引すべし、然れども其降るは極めて確かにして決して免す可らずと。夫れ、内亂あり、疫疾あり、水害あり、墳火あり、亦た大地震あり、天の吾國民を警戒するや至れり矣、盡せり矣、今に於ても覺めずんば大日本國の前途それ果して何如ん。

凡そ國民を警醒し、亡國の兆を宣言するものは、何れの時代に於ても皆な狂せりと爲さる。吾人は狂せりとせらるゝものの反つて少なきとを歎ず。

今に於て震災地の爲に最とも必要なるは、眞の傳道あり。儒佛の信徒もし實に其道を信じ、其道の國家に益あり、人心を救ふに足ると信ぜば、須からく今に於て奮發すべし。吾黨が信ずる所ろの者は即はち吾黨は當に行ふべき所の者也。

今に於て傳道するは、啻に彼地の人の爲のみあらず、實に之に心掛くる人の幸わひなり。天の大警戒顯はに目前に降れるとき、たゞ義理の爲に金を投じ、名聞の爲に慈善に奔走し、肉躰の苦を救ふとの外に毫も考へ及ばす所ろなくば、あゝ淺

ひなる哉、悲しむべきは只だ震地の人の上のみならず、かゝる淺々しき心にて天の大警戒を抹殺し去らんとする人々の上にある也。

然るに、今や恰好適切の時機に中し、震地傳道隊なるもの起れり。吾人は天地に伏して感謝し、吾愛する日本國の爲に大賀せり。其設立主旨書に云く、

震地傳道隊義捐金募集

天災地變あるときは、一國の民常さに警醒すべき時なり。此時に於て若し悔ひ改めずば、一國の亡ぶると必らずや近かし。古しへ、ソドム、ゴモラの地に起りたる戒しめは言ふに及ばず、當今の世上國の盛りまた衰ふる例し、歷々嚴然として此敎へを與へずと云ふものなし。維新以來、内亂、疫疾、ともしく起り、優柔として細利に局促する輩らが、天の鞭に撃たれしと幾千ぞ。然るに、國の步み日々に危ふく、天の光やうやくに滅せんとするは、我同胞の心を痛めて切に憂ひ、大ひに省みるべきものなり。

此度の震災につき、其慘狀を見聞して斷腸の思ひなきもの、何處にある、之が爲め心を盡し、力を盡し、銘々相應の情けを寄せて、彼地の同胞に助けを送らんとするは、實に當然の事なり。

されど、吾等は此のみにて滿足するを得ず、また此度の震災につきて吾等銘々が心恐れ精神慴然として大ひに警戒したるの情はたゞ、斯る當然尋常の救濟法のみを以て安んじ沈むると能はず。

東海道筋の國々は、幕府太平の治世以來、人心道に傾むくの念にうすかりしが、名古屋、岐阜の民情はわけて淺々しく、其の大悔改を要すると實に一日の故にあらざりき。然るに、此度の震災より、車ひく男も載たる人に天命の嚴そかなるとを談じ、三味の糸にて世を渡る多くの賤しき女もある無情放蕩の若ものか遊興にとて招きしとき斷じて謝絕したり。かゝるとは、彼地人民の平生を知るものが尤とも驚歎する美談ならん。今は則はち彼地傳道の時なり、今は彼地人心の悔ひ改むべき時なり。もし今に於て悔ひ改めずば、其前途何如ん。思ひ遣るだに悚然として恐ろし。

義捐の金を其まゝ續々送るは、反つて害あり。聞く、彼地方尤とも乞食多かりし邊りに、今は一人の乞食なしと。そは、乞食すら飯米を受け得るほどに救濟の炊出饒かなるなり。又中には、義捐金を當にし今より胸算用をするものもありと云へり。あゝ、今にして彼地の人心舊然興起せずば、今后の彼地の災は決して此度の震災の如きものにはあらじ。

左れば、たゞ義捐金を其まゝに送るは、情けあるに似て實は然らず、反つて彼地の災を增す種とやならん。

今に於て第一に大切なるは、眞心の傳道なり、金を與へて立たしめんより、其心に說きて奮ひ起こさせ、衣物を與へて外より之を温たかにせんより、其心に愛と信との温たみを給し、たゞ其肉躰の看護を爲さんより、其靈を救ひ助くるの道を講ずるとあり。

之れ眞とに彼地の人を救ふの術なり。之によりて彼地永遠の榮えも來るべし。之によりて、東海道すじ浮薄奔利の毒風もやむべし。之によりて、一般傳道の道も大ひに進歩すべし。國民警醒の心も煥發すべし。我日本國の大ひなる救ひとなるべし。

我會は、曩に、醫師三澤默二氏、看病婦廣瀨梅子、大塚文野子、附添補助出口せい子を送り、岐阜縣下笠松にて看病救濟に從事せしめぬ。騷動混亂の后第一の必要は實に此の業にてありき。左れど、今や人心やゝ靜まり、未だ大ひに安んぜずして而して警戒の念ひ尙ほ新たなるの時、恰かも正に傳道を初むるの時ありと信ぜらる。

幸ひにして下谷敎會の假牧師湯谷瑳一郎君舊つて我會の求に應じ、彼敎會の全會員亦喜び躍つて氏を派遣するとを承諾せられたれば、去十八日既に出發せられたり。而して橫濱の信徒藤井米八郎氏も蹶起して之と同伴せられたり。此他、尙ほ奮つて彼地に趣むき傳道し玉はんとする人あらば、續々其出發を乞ひ、吾等は出來得べき限り其資金を祈り求めんとはするあり、吾等女性は、草鞋を編み、衣を縫ひ、鎧の糸をつゝりて、戰に臨み玉ふ大丈夫方の內助をいたし參らせんとは思ひ決するもの也。

之によりて、奮つて傳道に趣かんとする人と、之か爲に義捐金を寄せ玉ふ人とを眞心を以て祈り求む。

其義捐金募集の爲め、來る廿三日午后七時より、本郷中央會堂にて、幻燈及勸告會を開く。幻燈は、女學雜誌社員星野愼

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

之輔氏が、親から震災地を拔捗し、彼地の信徒の寫眞師某氏を伴つて、尤とも慘憺たる景色を寫し取られたるものによる。同氏悉皆之を寄附せられ、右寫眞師も其勞を寄附せられ、又之を幻燈に製造する三原親輔氏も亦た入費を義捐せられたり。其幻燈には、地震地中心の根尾谷の景を初とし、近頃所々にて催ふしたる會にて未だ寫さゞる極慘の景多し。此景を同情の人に示し、亦吾等が衷心を訴へ、同志の人の義捐を乞はんとす。

尙ほ地方にありて此の志を贊けんとせらるゝ方々は、多少に拘はらず、女學雜誌社内本會掛に向け、寄送あらんことを祈る。

東京下六番町六番地女學雜誌社内
震地傳道隊 事務掛り
（右東京婦人矯風會員主任）

贊成 補助 **東京靑年聯合會**
（聯合に加はり玉へる府下各靑年會の名は一齊の上更に廣告す）

吾人は敬虔儼肅ある心を以て、此の企の成效を祈禱し、所云る傳道隊の諸君が、能く當路熱心の宣教者諸君を助けて、彼地長遠の救拯を行なひ玉はんことを望む。

且や聞く、此隊の人々は、衷心同情を表し、眞心より義捐せらるゝ人の金の外は求むることなしとぞ、蓋し「傳道は人の爲のみにあらず、亦我が爲めなり」「眞心より出し傳道の方法にあらずば成功せず」「成功とは目前の事にあらず、眞心にて種一粒を播くの可なり」「一日にても半日にても資力の續く丈け傳道し道絕へなば天の塵に隨つて止めん」と決心せらるゝ故なりとぞ。此等の傳道法皆な吾人が尤とも贊成して措かざる所ろ也。

來る廿三日夜 **幻燈及び勸告會**

震災地の實況幻燈二十三葉外に想像畫幻燈多種
天災地實況實歷の感（星野愼之輔君）
天災地變に對する吾等が警戒並に尾濃傳道の急務を訴ふ（巖本善治君）
本鄉中央會堂に於て午后七時開場
（來場無料）

特に同主義の雜誌にのみ廣告す、同志の人成べく多く入場し玉はんことを祈るがゆへ也。

兒籃

小公子

第十二回（丙）

若松しづ子

併し兩人とも貰つた手紙を、何より珍重し、二人して繰返し〳〵是を讀み、一字〳〵が樂しみの樣でした。そして自分たちの送る返事も幾日もかゝつて書まして、貰つた手紙ほど幾度も讀み直し升た。

ヂックが返事を書のは中〳〵容易なとでは有ませんかつた。自分が讀み書を覺へたのは、自分の兄と同居してゐて、夜學に通つた數月間に習ふた丈でしたが、英敏い子でしたから、其暫時に得た智識を利用して、新聞紙を拾ひ讀みしたり、敷石や塀や、垣根へ白墨の切れで手習ひをし升た。それでヂックは自分の履歴話しをホ氏に委細話したとが有升たが自分のまだ少さい中に母が歿して、其後は兄が隨分深切に保護してくれたのでした。尤も父は其先になくなつてしまつたのでした。兄の名はベンといひ升て、ヂックが稍成長して、新聞賣りになるまで相應な世話をして居り升たが、追々成人になつて、役に立つ樣になる中に、ベンも可なりお生計を營むやうになり、一寸した店に奉公住みする程までに立身致し升た。この話しをして來て、こゝになると、ヂックが愛想の盡きたといふ顏付をして、

それから、旦那、するとに事を代へて、嫁なんか貰うじや有ませんか　あんだか、女にのろけて、馬鹿見た樣になつてネ、それで、とう〳〵嫁に貰つちまつて、裏屋で世帶を持つちまつたんです。其女つていふのはまたしよふがない奴で、丸で暴れ猫みた樣なんでネ、機嫌の惡るい時なんぞにや、何でもビリ〳〵引つさいてネ、そうして、いつだつて、おこつて居ない時はねいんでさア。丁度又自分の通りな赤んぼうが有升たつたつけよ………夜晝鷄鳴つ通してネ、それで、わたしに守をさせてネ、鷄鳴るたア、わしに何んでもとつて放りつけるんでさア。一度あんか皿アぶつゝけると、丁度赤んぼうに當つちまつて………腮へ瑕拵らへちまつたんです、醫者がなんでも死ぬまで癒るまいつて言ひ升たつけぜ、イヤア、とんだお袋だつたんでさア。家兄とわしと其小坊主と三人して、イヤ大騷ぎをやらかしました

つけよ。全躰、其女は家兄が早く金を拵れいねいつて、怒るんだ。それだもんだから、牧畜をやるだつて、合手を拵らへて、西國の方へ出てつちまつたんです。スルト一週間もたゝねいに、ある晩、わしが新聞賣つて歸つて來る、見ると戸に錠が降ろして有つて、中は空つぽになつてる、隣のおばあがおミナーは行つちまつたつていふんです。逃亡したんです。誰だつけか、子供のある奥樣に附いて、海を渡つて遠國へ行つちまつたんだつて言ひましたつけ。それからつていふものは音信不通さ、家兄にだつて、一向音沙汰なしあんでサア。わしなら、心配なんかしてやりもしねいが流石家兄もたんとしねい樣だつたんです。ダが、始は丸で首つ丈で丸で、夢中になつてたつけ。ダガ、若物でも若けいて、怒つて居ねい時なんかは、余つぽど奇麗な女でしたつけ。眼つてば、真黒で、でつかくつて、頭髮つてば、矢つ張り、真つ黒で、膝んとこまでもあるんだ、なんでも、緬めば男の腕ぐれい太くなつてネ、それを頭中グルグル捲いんたつけ、眼なんてはなんかの珠玉の樣にテカテカしてたつけ。なんでも、半分はイタリヤ種だなんて、いふ人が有ましつたけ……お袋とか爺とかがあつちの方から來んで。それで妙な所が有るんだなんてネ。どふも、そんなもんか知れないと今じや思つてるんです。

時々此女と自分の兄のことの話しをホー氏にし升たが、兄が西國へ行つてからも一二度は手紙も來た樣に言ひ升た。ペンーも中々好い運に有つかず、此所、彼所と徘徊廻り升た。併しヂツクーがホー氏と知己になつた當時には、カリフオニア州の牧畜場へ這入つて働いて居升た。

家兄もあの女にすつかり、骨を抜かれつちまつた樣なもんで、時々わたしも可愛さうになつて來たんです。

此時二人は、相變らず、戸口に坐つて居て、ホー氏は煙管に煙草をつめて居升た。それで、マッチ箱を取るとて、立ちながら重々しい調子で、

全躰、嫁なんぞ貰はなければ好いんだい。女なんぞ。わしなんぞは、あんなものはどこが好いんだかさつぱり分らねいナ。

さて箱を開けて、マチ一本出さうとするはづみに、足を止めて、帳場を見ると。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ヤア、手紙が來てゐるの、ちつとも、知らないでゐた、わしが氣がつかん時に配達が置てつたらうか、それとも、新聞が今まで載つかつて居たんだらう。

さて手にとつて篤とこれを見、ビツクリ聲に、

イヤ、あれから來たんだ、ちげひねへんだ。

そこで、スツカリ煙管のとは忘れて、イキセキしながら、元の倚子に歸り、懐中ナイフを取り出して、封筒を開き、

こんだは何の便りだかナ？

といつて、開らいて讀んだ手紙は此の通りでした、

大急きで一筆したゝめ候それは大變珍らしひことができてをぢさん聞なされば驚ろきなさると思ふからに候先からのとはみんなまちがひで僕華族ではなく侯爵にならずとも好いのに候僕の伯父さままでビーヴィスといふ人の嫁になつた婦人が小ども一人持つて居り候そして其兒がフォントルロイで御座候英國では侯爵のそうりやうのむすこがいつでも侯爵になるので御座候みんな死ねばで御座候とうさまやぢひさまが死ねばで御座候僕のおぢいさまは死なゝいけれどをぢさまは死んだので御座候それ故をぢさまの兒がフォントルロイで僕はさうでなく候それは僕のとうさまは末のむすこであつたからで候僕の名はニューヨークに居た時と同じでエロル、セドリツクと申のにて候そしてなんでもみんな其兒の物になるのに候始めは僕の車や小馬もやらなければならないのかと思ひ候併しおぢいさまは遣らずとも好いと仰しやり候僕のおぢいさまは大變こまつてお出なさり候そして其婦人が好でない樣だと思ひ候併し僕が侯爵におられないから僕と僕のかあさんが厭だろうと思つて入つしやるのかも知れず候僕は始め思つたよりか今侯爵におりたく候此のお城は大變奇麗で僕みんなが大變好だからで候そして大層金があれば色々のことができるからで候併し僕はモウ金持ではなく候あぜといへばとうさまが末の息子ならば誰でも金持ではなく候僕母さまを世話できる樣に働らく積りで御座候僕ウィルキンスに馬丁の仕事のこと尋ね候僕馬丁か御者になるかも知れず候

あの婦人は子供をつれてお城へ參りおぢいさまとハヴィシヤムさまとが逢て話しなさり候あの婦人は怒つたのだらうと存じ候大きな聲で話しをいたし候僕のおぢいさんも怒り

なされ候僕おぢいさまの怒つたの始めて見たのに御座候みんながあんなに怒なければ好いと存じ候僕はをぢさまとヂックに直ぐ話さうと思ひ候其譯はあなた達が閑度だらうと思つたからに候この手紙はこれ切りでやめ申候

舊友

エロル、セドリック、

（フオントルロイではなし）

愛する

ホッブス樣

ホッブス氏は椅子へドッカと倒れ、其手紙は膝の上へ落ち、懐中ナイフは床の上へ滑り、封筒も同じく下へ落ちました。

フーン、おらあ呆れけいつた！

と鐵炮を放す樣に言ひ升た。余り動じ樣がひどいので、歎息の聲まで平常とは違つて居升た。ヂックは側から、

そんなら總破裂なんですネ、

イヤ、大破裂だ、ダガ、わしはあの子が米國人だといふので、權理を奪ふつていふんで、何んでも英國の貴族めらが仕組んだこつたらうと思ふんだ。あの革明以來わしらの國へ對して怨みがあつてたまらん處だから、今あの子に意趣がへしをするんだらうぜ。わしがなんでもあれが劍呑だつていつたが、そら見さつせい。ヒヨットしたら、政府がみんなかゝつて、法律の上であの子のと締つた物を取らふといふのかも知れねいぜ。

ホ氏は大層心痛の躰でした。最初にはセドリックの境遇の變わるのがふ賛成でしたが、近來は追々思ひ直す處も出來、殊にセドリックの手紙が來てからは、自分の舊友と思ふ者の出世を内々自慢に思ふ位になつたのでした。全躰侯爵といふ者は相變らず、嫌ひでしたらうが、米國にても金といふものはかなり調法なものでしたから、財産や段々聞傳へた豪勢なとが爵位に伴つて行くものならは、其の爵位のなくなるのは多少の迷惑だらうと思つたのでした。

なんでも、あの子につくものをうばわふとしてゐるにちがいねへ、金のある人がチット世話やいてくれゝば好にナア。

そして、其夜はヂックを遲くなるまで引とめて置き、歸る時には角まで送つて行升た。そして歸る途には例の空家の前へ立ちどまり、非常に心配しい〳〵煙草をふかして「かし家」の札を稍暫らく眺めて居升た。

笑ひ草

佛國のある滑稽家が經驗といふ言葉の釋義を下して「經驗とはこれ頭髪皆失せ兀頭と成果たる後購ひ得たる櫛の如し」と。

先頃帝國法科大學の書生プロフエツソルに出したる書物が翌日其まゝ戻されたるに驚き見れば、紙端に何かモヂャ〳〵と走り書せし有り、何ものとためつすがめつ眺むれど、何分讀下し得ず、因つて早速プロフエツソル許持行きて

書生　先生、どふもこゝへお記し下さつたとを解し兼升が?

敎師　ナニ、それですか?それは「讀難し」と書いてあるんです、モ少し注意して分る樣にお書きなさい。

雜錄

全國廢娼同盟會年會の歌

（其一）（二百三十五番の譜）　紫菼山人

一、有明の　月かげしらみぬ
ねぐらのとりも　うたひでゝ
なれし野山も　おぼろ〳〵
けさの門出や　惜むなるらん。

二、きけよたらちね　わがはらから
かすみに匂ふ　花のごとく
花のみやこに　わが名かほり
雲井の上の　雲雀のごと。

三、ほまれを高く　世にあげつゝ
ふたゝびあはん　柳のいと
のどかになびく　此ふるさと
さらばしばらく　いざしばらく。

四、隅田の春の　花のゆうべ
迷ひぞそめし　奈落のみち

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ひるを欺むく　電氣の光り
心のやみを　照しあへず。

五、よみのほのほに　心やかれ
毒蛇の舌に　身をなめられ
いき血すはれて　力つきぬ
日ればやくれて　足はおもし。

六、秋風さむし　單のきぬ
始てしりぬ　あつきなさけ
たらちねの家　目に近くも
いかになさまし　今や此の身。

七、我身をきるか　鋭鎌の月
楊のかた葉　力もなく
風にふきくる　夕時雨の
涙にくもる　我ふるさと。

（其二）（百四十四番の譜）

一、みよやみよや　サタナの城
みそらにそびゆる　あの白壁。

二、つめにさかれ　餌となりて
あはれ青ねんの　かばねなるぞ。

三、きけやきけや　サタナのうた
しらべにあはする　三筋のいと。

四、わなとなして　獲ものとせる
青ねんのいき血を　のむ舌うち。

五、どくのいきを　はきだしつゝ
ほのほの舌もて　なめてまはる。

六、天地もふるひ　くにのもとい
もゆる火のうみに　今かおつらん。

七、さめよさめよ　あいの角笛
ふじのいたゞきに　なりとゞろけ。

八、すゝめすゝめ　すくひのはた
ほろびのちまたに　うごかずたて。

九、たてよたてよ　正義のつるぎ
サタナの脂に　あきてこゑよ。

十、かへせかへせ　あい國の友
大和のみくにを　かみにかへせ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

繪畫と道德　(其下)

美と善とは必らずや伴なはざる可らず。思ふに美は善の爲の聖き晩餐の如きか。經に云く、人はパンのみにて生くるものにあらず、唯だ神の口より出る凡ての言に因ると。故に美は神が其愛を万物の上に印したるものゝ如し、人之を譯して顯はに記したるを美術とは云ふ。万物に美なる現象あるは、神が吾等を愛し玉ふとの證し、亦た約束の如し、而して、美術は此の約束の必らずや果さるべきことを預言するものなり。

パルビッチンの大畫仙フランソア、ミルレー曰く、あゝ、余が畫を視るものにして、夜の懼ろしきと美くしきとを共に感ずるものあらん哉、其調和、其沈靜、其吹く風のさゝめきを感ずるものあらん哉、之によりて宇宙に存する無限の氣に感通するものあらん哉と。

ウヰイヅヰルス曰く、吾等は、崇畏と、望みと、愛とによりて生くるものなりと。美術が、世の最とも美しきものを畫き出して吾等が心の中に顯然たらしむるは、即はち此の崇畏と望と愛との思想なり。マンゴ、パーク、亞弗利加の砂漠中にて衰ろへ果て將に困倒せんとするとき、綠の色の菌を近くに見て愛と望とを復活せしめ、再たび活氣を獲たり。美術が疲れ果てたる吾等が心を活かせて、之を限りなきの愛と望とに接せしめ、且つ吾等が心を樂しみの中に嚴そかならしむるも亦斯の如し。

マイケル、アンゼロは言く、凡そ完全なるものを創造せんと勉むる時ほど、人の靈魂を高潔にし且つ宗敎的ならしむるものなし。而して神は完たきものなれば、之に向つて拮据勉勵するものは皆な神に似たるものとなる、見よ眞の繪畫なるものは神の完たきとの像を寫したるものにあらずや、天地の調和に倣はんとて其風調をペンシルにて映じたるの跡即はち繪畫にあらずやと。ダルハムの今の僧正又云く、美術とは、吾等が理想に形躰を與へて之を吾等が目前に顯はに示すものなり、而して基督敎的美術とは、吾等その理想に近づき、今の罪咎より救ひ出さるべきの望を明らかにするものなり、其畫くところ、半ばは神の理想を失いたる墮落の罪なり、半ばは之を獲んとて勉むる所ろの道德上の勉勵の躰なり。

繪畫に嚴そかなる目的の存するは斯の如し、其の道德と接するとの密なる亦如此し、盖し繪畫は、此の神奧高妙の主旨に

適はずんば益なきなり。

繪畫の道德既に如此し、然らば之を畫くものに此の道德上の大思想を要するとの切なる亦た論ずるを待ず。今の畫仙中、酒に醉ふものはあり、放埒なるものはあり、黃白を貪ぼるものはあり、たゞ妓に耽るものはあり、然れども嚴然として此の神聖なる大思想を懐いて筆を揮ふもの果して幾千人ぞ。

女學史料

天保時代の女子敎育所

天保年間より維新にかけて通例子女の學問所といへば寺院と醫師の宅なりけるが爰に熊本邊にて女子敎育所のはしとも見えしがありといふは元大名旗本の邸に奥勤をなし居りて嫁ぐ可き春も空しく過ぐしたる女中の一旦邸をさがりて其處此處の女子を集めつ學の道を敎えける所也其稽古の時間といふは大凡四ッより八ッ迄にして女大學、今川若くは徒然草の類を敎え學才ある者は古今序等を用ゐたり月謝といふべきものはなくて只盆暮に心附をなすのみ也けるが稽古の爲に行くとはいへ多くは師匠の家の手傳をなしけるとぞ左れど斯るたぐひも稀也と聞く。

矢島つる子養蠶の理を說く

維新の前女子敎育といへば書讀む業よりも家事裁縫養蠶の類を重じたりき矢島つる子は熊本三村兵衛門の女にして矢島梶女史及び横井時雄君の母又德富猪一郎君の母等の母也和歌を善し漢土の書にも通じぬ平素家を治むると極て嚴肅也けるが八人の愛兒を自ら敎育し殊に養蠶の業に勵みて一家衣服の料となしけり國中にて養蠶の外れたりといふ年にもつる子の繭のみは豐りたるとなし人奇しきことに思ひて其故を問ひけるに蠶と雖も生ける物也是を吾子を育つると思ひて時候の寒暑をいたはり食物に親切を盡さば如何ある年と雖も丹誠の甲斐なからんやと答へけるとぞ。

矢島梶女史幼にして母に叱せらる

女史の母つる子は天資萬の情にとめり家にて養蠶をなしける折なかば腐みたるものと雖もなか〳〵に捨てず女史幼きより潔癖あり日々腐みたる蠶の仕末に困じ果てつ一日母に謀りて河に流さんといふに母は聲を勵ましてまだ生きていますと叱したりき。

矢島梶女史東京府講習所に入る

女史家兄の東にありて病枕に伏せりと聞き知人に隨ひて都に上り駿河臺に住みぬ時に明治五年にして世は廢藩置縣に囂しかりけり家兄の同僚にして東京府學務課長なるが一日女史に向ひて東京府にては女子の袴などを着けたるが教師の稽古をいふものを始めたり女史もそを學びてむやといふに女史容を改めておのれ未だ學問といふものを知らず是より學ばむと思ふ程なるにいかで教師等の望まるべきと答へける課長笑を含みて此頃の教師といふものは左るむづかしきものに非ず大學中庸等は知らずもあれ打見たる處にては大根人參等の書きてあるを云々と讀む樣也と語りければ女史は學問の不足を嘆きつ家兄の勸むるが儘に其より東京府講習所に入りぬ。

團扇の洋算

矢島梶女史東京府講習所にて學べる折洋算にて苦みけり女史の家兄は交際の廣かりければ日頃訪れ來る陸軍の軍醫の蘭學數學に精しき由を聞き女史は講習所のことを語りて洋算といふものを敎へてんやと乞ひぬ軍醫直に一より九迄の數字を團扇に書きて與ふ是を暗誦すれば加減乘除意の儘也といふに女史喜びて是より家にある時は其團扇を放さでありけり客に侍する時なども靜座して團扇を打眺め一より九迄を學びけるがやがて軍醫に向て暗誦を得たりといふに然らば加算減算を敎へんとて書連ねて與へけるうち、はては團扇の眞黑になりけり。

鏡の作文

講習所は小學校の教員を養成するところ也ければ五十音の敎へ方單語連語算術作文などを學ばしめたり作文の題には犬猫の類多かり一日鏡といふ題の出でぬ矢島女史大に困じ果て隣席の友と共に書方を師に問ひけるに鏡は家にて日々用ゆるものならずや然らば其由を作るべしと言ひぬ女史乃ち筆を採り鏡は銅にて作れるものなるが今はガラスにて作り輕便なるもあり夫れ鏡は人の容貌を見するものなれど又人の心を寫す也と記したりしに師大に之を稱しける。

講習所の生徒

人はさま〴〵なるが始て女子の學問する講習所の生徒には分けていらだてるもあり理屈めきたるもありあら〳〵しきもあり綿密なるもありけるが中にも人の目に立ちて恭謙ありしは宗教家とも見ゆるが稽古をなす樣也しとぞ矢島女史心竊に其

風采に感じ十六七とも覺しき利發にして沈着ける生徒に向ひてお辨當の折に親誼を重ねける其人算を能し洋書をも讀める樣なるより就て問ふに洋人のもとに學びつ日曜日には何處へか行くとあん語りければ女史奇異の思をなしけり。

中村一家學生となる

故中村敬宇翁小石川に同人社を開き麹町に同人社女學校といふを建て洋人カクラン氏を敎師となしけり敬宇翁こゝに家族を學ばしめ令閨阿孃婢女に至る迄一家悉く學業に身を委ねたれば薪水の勞を執るべきものなし乃ち近き邊よりたきだしをとりて朝夕にぞ給したりける。

敬宇翁矢島女史に敎ゆ

同人社女學校は其はじめつかた束脩二圓にして日々二時間半學べる者は月謝金二圓五十錢をとさめたり矢島女史も亦此に學びけるが一日敬宇翁に言ひけらくおのれは既に白髮交りとも言ふ可き年配なるが今より英學の修めらる可きやとあるに翁之を勵ましてあなたがやめなければ出來ますといひき

批評

○無想劍を讀て思へる事　　た、　た、

無想劍は文弱に流れ、涙に沈み勝なる、女學雜誌讀者の頭上へ眞向にふりかざし切込みきたり、不知不識勇氣勃々と肉おどる活氣を起さしめたる腕の巧、東西の敎旨哲學一揆の眞理を發揮し鍛へたる結想機軸の妙、何となくめづらしくおもしろし、たゞ文字の上を以ていへば、景色をうつすに冗復の語多く、應對の詞一樣ならず、例せば、靜枝の言葉の中、浦半の月の段に侍るかゝしと雅びやかなりしものが、墓場の月の段にて、ゝの花ダ、云々又同じ段に有かゝたゝうつて、、と俗び今めきたる、其他の段に少し流行おくれも成しことを無造作に遣ひたる、文調を妨ぐる心地す、これ等は我でとき鈍眼無識の身にも分ちやすければ、作者が推敲を屑とせざる一失として備ふるを責めまほしけれど、尙白璧の備瑕畢竟ずる所、連城の價には損あるまじ、結了にのぞみ、老僧の胸間は十字架を月光に輝かし、全篇に光彩をそへ、柳生と名のらして、亦武道の達人としらする用意、作者の得意のさま、思ひやられ

奧ゆかしかりき

○國華第二十四號　　八木紘辰

曉齋の畫、筆力精巧を極む、然れども花鳥の圖は布置錯雜の嫌なき能はず、山姥の圖は獨り筆力のみならず意匠も亦妙、是等の圖亦果して醉中の作とせば眞に天才と云はざるべからず。

○近世地理學　　のぶ子

松島剛氏著の近世地理學は、記述は細密なり、所説は確實なり、要を摘して漏すなく、舊を脫して新を求め、近世地理學の名空しからず、矢津昌永氏編述の日本地文學と供に一對の良教科書にして、近頃の傑作と云ふ可し。特に北海道誌は、著者の揭言せらるゝ見く、見るべき箇所甚だ多し、北地移住說の盛なる今日、有志者を益すること、蓋し纖少ならざるべし。

○修身四書

末松謙澄君、政海に奔走し、演說に周遊せらるゝ間に、修身上の四の書を著はさる。云く、勅諭修身經詳解。云く、國民修身談。云く、勅諭修身經讀本。云く、勅諭修身經階梯。修身經の讀本と詳解と階梯、三つ乍ら畧ぼ相似、左して色を異にするものなし。國民修身談は、甚はだ平易に出來たり。凡そ修身上の事は、威力を要す。故に第一は活摸範をよしとす。次には、品德の伴なひたる高雅有力なる文章にて導らざる可らず。此書の如き未だ此等の點に於て滿足すべきものにはあらず。

新誌一覽

○讀書

思軒居士が文、整緜完姿、端然として貴公子が步むに似たり。余は「文」として之を愛讀するもの丶一人なり。「國民の友」の近號に其「讀書」の一篇あり、眞に好く其スタイルの標本となるものなり。云く、

人は書を讀まざる可らず、我に無數の思緒あり、日々夜々物に逢ひ事に遭ふて發す、然れども其思緒を歸繹して確かに其條理を透看し之を立てゝ以て首尾を完くし序次を明にせる一個の定見定說とするを得るに至るには……

其用字の愼密なる殆んど妙地に達すと云ふべし。

○我信仰の表白

六合雜誌の第百三十號には横井時雄君が信仰の告白あり、其第百三十一號には內村鑑三君が表白あり。之を比較したる讀者の中、其案外なるに驚ろくもの尠なかるまじ。特に、內村君が表白の文章の氣力あり文藻あるに至りては、近時六合雜誌中に一生色を染出したるの觀あり、云く、

余は東京に來りて以來又米國に在學中有名なる宗教家に接せざりしにはあらずと雖も是等の人士が余の靈魂に及ぼせし所の勢力は獨り石狩の平原に漂泊し聖經一冊を懷にし小銃を肩にし禽鳥の跡を慕ひ又北海の濱に漁夫の疾苦を訪ひ水產動物上に顯はるゝ神の榮光より出し所の效力に比すれば實に僅少なるものと云はざるを得ず

內村君得意の文法躍々たり。

○北海道

北海道を論ずるもの多し然れども吾黨の志を得たる第一の秀論は、本月の六合雜誌に出でたる大嶋正健氏が論文なり、云く、

迂の如くにして徴なり、小の如くにして大なるは實に此の無形世界を支配する道德の問題なり、北海道の移住者は、一に茲に心を寄せ、此の易らざるの道を歩み、宜しく北海道將來の歴史の原動者となるべし。

今に於て北海に移らんとするピウリタンは何處にありや。

○宗敎

ユニテリアン雜誌更に改めて「宗敎」と題し、內部も餘程變はりて出で來れり。凡そ、派色を異にしたる宗敎は一々其器關あるを好しとす、何となれば其主義持論世に知れ渡りて彼此相磨するの便あるを以てなり。故に、亦た「宗敎」の發行を祝す。

○同志社大學の寄附金

同志社文學雜誌の去月分に、小崎弘道氏が文を載す、中に云く、寄附金の取纒も案外困難にて爲めに當初の目的の半をも達するを得ず實に遺憾少からずと云ふべし即はち理化學校資金十万圓を除き大學資捐金の總額は金六万千四百七十五圓六錢五厘にして現金收入高四万二千九百十一圓五十五錢なりと。

閑書

讀賣記者に告ぐ（同新聞五一五七號參照）

（在濃）漂遊生

是故に施濟を行ふ時人の譽を得んために會堂や街衢にて僞善者の如く鐸を己が前に吹かしむる勿れ、我誠に爾曹に告ん、彼等は既に其報賞を得たり、汝等施濟をする時右の手の爲す事を左の手に知らする勿れ、

救恤施濟の事に關し、基督敎の敎ふる所實に斯の如し、少くとも或部分の信徒は思ふに之を信じ、事を實際に行ふならん、吾人は疑はず信徒の衆業暗中に隱れ、世上に發露せず、徒々人をして彼等が博愛熱信を實行に示さゞるを非難するに至らしむるを、數日以前吾人は讀賣新聞に於て實に左の言を見たり

而して宗敎の內に於て最も勇往直進の氣象に富む所の耶蘇敎に向つて望を屬す、望を屬するが故に、又其不注意の點に於て警告の勞を執らざるを得ず、而して余輩が不注意と稱する所のものは他なし、宗敎家が今回の震災に於て沈默するに在り、傍觀するに在り、緘して冷淡なるに在り。

宜なるかな、彼記者をして此言をなさしむることや、吾人亦彼の敎義を信ず、故に事々しく辨解を爲すを好まず、然れども外は以て世人が誤認の點を聊か辨明し、內は以て未だ奮發興起せざる信徒あらば之を反省せしめんと欲し、少しく實地に於ける基督敎徒の運動を見聞せるまゝ記述せん、

震害一朝濃尾地方に起るの報四方東西に聞ゆるや、先づ慈善救濟の事に心を付したるものは誰れ、吾人は躊躇なく斷して云はん、曰く基督敎徒なりと、

若夫れ公平正明なる眼光を以て一度震地を視察せば思ふに數外の人士と雖も恐くは信徒の事業に觸目せん、先づ名古屋、岐阜、大坂地方に救濟事務所を置き、互に聯絡を通じ、施濟金錢、衣服、毛布、其他種々の物品、得るに從て之を施與し給す、別に笠松、竹鼻等の地方には支所を置き、以て窮民を救はしむ、信徒の盡力するもの數十名に下らず、醫師は空地を撰て天幕を作り、假病院となし、負傷者を置て日々手術を盡し、輕傷者は往て之を診察し、或は病院に來らしむ、醫師數名も在る地に於ては一二人滞院して負傷者及び來院患者を治療し、他は早晩辨當を提へ最寄の地方を巡廻し、其病院に來る能はざるものを治療す、看病を司るものは信徒婦人の自ら身を挺して被害地に來れる人々なり、藥品、繃帶、器具、金錢等を送るものは非被害地方の信徒若くは事務所の委員なり、尙各地に於て運動の摸様を精細に述べんか、

名古屋の地最も運送通信に便利なるを以て此地の事務所を中心とし、岐阜の宣敎師某氏の假宅に同じく事務所あり、日々此處より出張して岐阜市の內外を視察し貧民に逢ふ毎に切符與へて後刻米穀を施與すべきを告ぐ、此故に朝夕彼事務所に集ひ來る貧民數を知らず、（此地には縣立病院あり、醫師に不足なきを以て信徒の假病院を置かず）、大垣に於ては舊城の東部公園に假小屋を設け、負傷數十人を容る、其の東南に學校あり、當時休業なるを以て此內にて手術を爲す、此に出張せるは同志社病院醫師數名看護婦數名及び、赤十字社醫師數名なり、屋後の庭內に假小屋あり重傷者數十名を容る、大垣市內の患者を診察し、尙余力を以て其近傍の地方を巡視し治療を加ふ、一醫の診察一日百五十人に上りしとありと、其煩勞思ふべきなり、（因に云ふ、此地に最初到着せるは同志社病院醫師の一行なりしと、其最初より診察せるもの千人餘なるべし、患者は赤十字社出張醫に托し、本月十日頃引上げたり）、大垣を東三里餘竹鼻町あり、此に出張せる醫師を東京赤坂病院醫ドクトル河上氏とす、氏は當地別院庭上に假病院を設け、十餘名の醫師と看護者を指揮して早朝より夕刻診察治療に寸暇もなし、十餘名中此地を中心として早晩四方に派出し、深夜風寒きに至つて歸り、天幕露を洩す內、土床に蓆席を布き、垢臭堪へ難き夜具に僅に夜を凌ぐのみ、晝は行々診治に勞し、暮れては飢寒

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

く、食甘からずして夢結び難し其勞苦亦實に思ふべし、其他非被害地方の信徒、ある義捐救濟に孜々汲々、二枚の衣をもてるは其一を別て送り、一圓を有するは半圓を義捐す、生徒數十人の女學校に於てすら衣服數十領金子十餘圓を義捐するに至る、或は十餘人の信徒ある僻地に於てすら二十五反の綿撒糸を送るが如きあり、一小教會より百餘圓を寄附するあり、其他自費挺身、負傷者の看護に趣くもの、震地を巡視し、亦歸て更に信徒に實狀を訴ふるもの、其他種々の方法により信徒各自應分の力を盡せりと云ふも、吾人は其過言に非るを知る、吾人の見聞する所誠に斯の如し。

嗚呼汝曹基督教徒よ、施濟を人の見ざる所に爲せ、さらば隱れたるに見給ふ汝等の父は明顯に報び給ふべし、決して人の見ざるを憂ふる勿れ、世の知らざるを意とする勿れ、而して許多の信徒中尚未だ義捐するの餘力を有する者あらば乞ふ惜みなく施與せよ、斯くの如くにして貧を招くは是即ち天に汝曹の寶を貯ふるに等し、努めよや、大に努めよや。

讀賣記者足下、死者に引導を渡すも、高尚の理窟を述ぶるも、奇跡を喋々するも、現世に於て同胞に對して博愛慈悲の教義を實行に現はさずんば誠に宗教の益なきこと足下が言の如し、足下が懇篤なる忠言は喜びて之を聞くこと幾多信徒等しく然らん、然れども信徒の實狀上陳の如きなり、吾人敢て足下を寡聞なりと云はず、是足下が教外の人にして且震地の眞況を實見せざるが故に彼言をなせしを信じ、一言するのみ、吾人豈筆を採るを好まんや、時節柄内外共に益する所多しと信ずればなり、濃洲巡視の途路、謹言敬白。

隨感

夫婦の眞の愛

しのぶ

昔し創世紀時代の初めに於て、イザクとリベカとは吾等に眞の夫婦の摸型を示しぬ。ラバンとベトエル答へて言ひけるは、此事はヱホバより出づ、我等汝に善惡を言ふと能はず、視よリベカ汝の前にをる携さへゆきて彼をしてヱホバの言ひ玉ひし如く汝の主人の子の妻と成らしめよと。蓋し神の合はせ玉ふ所のものは、人之を離つと能はざる也。イザク、新妻の來るをまち、黄昏に野に出で、默想を爲したりしが、目を擧て見しに、駱駝の來るあり。リベカ、目をあげてイザクを見、駱駝をおりて僕に言ひけるは、野をあゆみて我等にむかひ來るものは何人なるぞ。僕、わが主人イザクなりと言ひければ、リベカ覆衣をとりて身をおほへり、乙女氣の耻らふ樣、つゝしめる樣何んぞ優々として麗はしき哉。茲に、僕、其凡てなしたる事をイザクに告ぐ。イサク、リベカを其母サラの天幕に携れ至り、母の親しき世話によりて娶りて妻となし、之を愛したり。イサク、母にわかれてのち、何處にか慰さめを得たる。彼は其の妻リベカの上に、即はち茲に慰藉を得たりける。

偕老同穴

もみぢ

ビーコンスフヒールド侯、ヂスレリーは夫人の内助によりて、ユダヤ人の子より登りて英國の總理大臣となりぬ。說を演る時は、傍聽席の妻の眼光に射られ、勵まされ、大丈夫として突立上る。政略を考ふる時は、鋭敏なる夫人の注意によりて案を立てぬ。此英國近世の最大政治家は、過半妻の助によりて總理大臣となれり。英國女王陛下、金冠を氏に授けて、之を子爵に擧んとす。氏

辭ひて云く、臣が功にあらず、妻の功なり、乞ふ妻に授け玉へと。則はちヂスレリー夫人は、子爵夫人となり、其良人は依然一と通りのチノレーブル、ゼルトルマン（一個の國會議員）なりき。

ヂスレリー、妻に後れて死しぬ。政敵グラッドストン、氏が勳功を顯揚し、之を國葬にせんとす。遺族辭して云く、遺言に違ふをもて辭すと。遺言に云へらく、わが亡き妻の墓の傍らに、吾亡き妻を葬むりし時の如くにして葬れよと。無論夫人を葬むりしときは國葬にてあらざりしかば、即はち此の大政治家の遺骸は、政敵の美なる推薦あるにも拘はらず、雨蕭く々、花環淡々の間にいと略式のまゝにて葬られ了んぬ。

安心の工夫

しづ子

女教師などには珍らしと評判される程さえ〳〵と面白き氣象の婦人の許に三四の女學生集會して、一人が

先生愉快に暮らす秘訣があらば敎へて頂き度ものです。

といへば、又一人が、

本當に何事が有つてもいつも泰然として入つしやつて、私どもの樣に氣分がクシャ〳〵する樣なとが少しもおありなさらない處が不思議ですよ、

といふ。婦人は聞いてニコ〳〵しながら、

それじや皆さん、不審を晴らして上ませう。私の愉快な原因に付て。先づ皆さんもたしか御承知でせう、人によつては同じ困難を三重に身に引受けるとが有り升よ。人事じや有ません、私なども若い中はさうでした。第一は待設けの困難と申升て、それはこれから來やうといふ困難を預じめ思ひ煩ふと。第二は實驗上の困難、これ丈が本物なんです。それから第三が思ひ出しの困難と申て、これは所謂あとでクヨ〳〵するとです。私は餘程まへから一ツ困難は一度すれば澤山といふとを思付いて先づ預防が出來ない限には、困難の來るまではなる丈平氣で居升。そして實際困難が來れば出來る丈堪忍び、過ぎたあとでは大急ぎで忘れてしまい升。

地震傳道隊への義捐金は次號にて報告す。

家政

先づ、本號に左の問を掲げ、次の號に其答を獻んとす。都にある人は兎に角、田舍にある人には大ひなる便利あらんとて、渡邊辰五郎氏が寄送にかゝる。

（其一）尋常科裁縫試驗問題

(1) 男袷羽織表裏裁方及縫方順序を記すべし。

(2) 二尺巾一丈一尺の布を以て、六七才小兒服裁方積り方を記すべし。

(3) 中巾縮緬一丈一尺あり此切地を以て表とし、一ツ身を製するに、裾廻し及裏地袖口の切は、幾許を要するや。

(4) 小夜著は表裏共何程の切を要するや。
但し積方縫方順序綿幾許を要するや。

(5) 大巾縮緬にて引返し小袖を裁つに幾許の切を要するや。
但し縫方積り方を記すべし。

尋常科縫方

(1) 二丈五尺の切を以て、紐下二尺二寸出來上りの袴を裁縫すべし。

(2) 長さ六尺四寸巾一尺八寸五分を布を以て、胸當付シャツを裁縫すべし。

(3) 褄袖口をぬふべし。（但し褄は一寸出來切地は白羽二重）

（其二）高等科裁縫教員試驗問題（十二月廿日）

(1) 壹丈八尺の布を以て袴を裁縫すべし。
但し紐下二尺出來、時間は三時間雛形なり。

(2) 二尺一寸巾五尺三寸の切を以てシャツを裁縫すべし。
但し片面物半面もの胸當附二時間半に裁縫すべし。

(3) 五六才小兒の半ズボンを裁縫すべし。
右ズボン丈二十、股下十三〇二分五リン膝迄十一、尻廻り二十、ヒザ八、時間は三時間半なり。

(4) 四丈三尺六寸の布を以て女服引返し一枚下着廻り二枚裁方積り方を記すべし。
但し一尺七寸巾なり袖丈壹尺六寸身の丈四尺一寸出來胴裏並に糸綿は何程を要するや。

(5) 糸織一反八丈二反にて男物三枚重の寸法を記すべし（三十日）
但し行丈巾襟丈褄下同寸法に製するや否や。

(6) 三尺巾一丈四尺の布を以て男物單羽織二枚裁合せ方を記す

べし。
　但し縫上丈二尺五寸。
(7)常巾二丈六尺五寸あり之を以てシャツ二枚裁合せ積り方を記すべし。
　但し一枚は胸當附。
(8)巾九寸三分丈一丈の布を以て一ツ身の裁方及積り方を記すべし。
　但し袖丈一尺一寸、巾六寸五分、衽巾三寸五分。
(9)巾一尺二寸長さ一丈三尺五寸の片面物にて三ツ身裁方積り方を記すべし。(廿七日)
(10)白羽二重の布にて一寸二分の褄をぬふべし。
(11)白羽二重布にて單羽織二分の一の半身をぬふべし。
(12)三三二圖の如くせよ。時間十分。
(13)穴かゞり圖の如くせよ。時間三十分。

　右の問に對し試みに答を爲し玉ふべし而して次號に掲出するものに併せ究玉はゞ一興なるべし。

時事

○大隈伯辭職

大隈伯が辭職は、祝すべき現象なり。政治上の交際は、情實上の關係に異なる。もし意見を異にせば、斷然相別れて朝野に其所見を主張せざる可らず。之れ當然の事なり。政府が之を出したるも可也、大隈伯が辭したるも可也。故に吾人は之を祝す。

○内閣の色

然らば殘れる所ろの内閣の色は調然一彩なる乎。蓋し或は然らん。何んとなれば、或人は必らずしも確定したるものを有せず、又或人は必らずしも變はらざるものを有せず、要するに大抵皆或る一事に於て同樣なれば也。故に、現内閣は同主義の人より成れりと云ふべし。

○議會の議案

如何なる議案先づ現はるゝ乎。凡そ英氣は先鋒にあり。吾人は去歳の經驗により、龍頭の大議論、大質問は、先づ其の發端に於て出でんとを待つもの也。

○二宮尊德翁

幸わひにして世人近頃ろ翁を慕ふもの多し、然れども能く翁の如く、至誠、儉勤なるものありや、たゞ善を慕ふて善を行なはざるは、僞善なり。加之此度び、翁は從四位に追叙せられたり。翁は位を好むものにあらず。もし生ば今の政府の經濟に大改革を施こす所ろ多かるべけれ。

○近江聖人

次に世人をして知らしめたきは、中江藤樹先生なり。近世何處に求めてか他に斯る偉人あらん。其德、其學、其識、殆んと日本風の上に超出したり。

○村長

洋行歸りの庄屋の息子殿を祝ひ奉つり、實に今後は村長の持切りならんと言へりし村民あり。新聞記者之を笑へり。然れども、今に於て眞正の事業を爲さんと欲せば、村長とあるに若かず。俊秀有望の人、何故に此の好地位を望まざる乎。思ふに、今に於て二宮、中江兩先生の事業を爲さんとするものあらば、其人恐らくは村長とならん。

○小學校の德育

普通教育の施設に關する文部大臣の意見書中に云く、殊に修身に於て多數の教員の腦裏に一任して教科書を定めざるが如きは其當を得ざるものとす」と。吾人は此專擅的の語中に其論理を見出す能はず、書物を用ひて德育せざれば何故に當を得ざるものにや、聞きほしきと哉。

○小說上の取締

內務大臣は、今后小說戲作の取締を一層嚴密にせんとす。何等の慶事ぞ。

○文字

凡そ人、其心に勇なきときは姿に剛强の跡を裝ふものなり。文章も亦た斯の如し。心すでに慨せず、との故にたゞ嚴めしき文字の形を示して其弱を被はんとはす。近來の文章、何如んぞ、難文字の多きや。わづかに讀得て試みに之を唱すれば、石を打つ音の如く、土を踏む響の如し、志士の心を動かすに堪へず。

○愛國論

愛國、愛國の呌び聲囂々たる時は、密かに痛心警省すべき時なり。眞正の愛國者は愛國を論ずると少なし。彼は更に多く

の言語と、更に强き實行とを以て世に宣言せり。滔々たる愛國論の演說家は、蛙の亂鳴するに似たり。其聲の高きは則はち、餓に泣き、强きに恐るゝの聲なり。エホバ、言たまふ、ソドムとゴモラの號呼大いなるに因り、又た其罪甚はだ重きによりて、我下りて其號呼の我に達れる如くかれら全く行ひたりしやを見んと。斯て、其行なきの國民は、硫黃と火と天より降りて燒盡さるべきものたる也。

○余震冀はくは長かれ

既に早く地震を忘れ、名聞の義捐にツキ合ひを濟し、例の如く營々として利に奔らんとす。斯の如き國民は則はち更に大いなる天災を蒙むるべきものなり。此如き人々の住へる地は遠からずして亡ぶべし。あゝ、無智となるとも安くんぞ仁の居を擇ぶに遑まあらん。同胞もし警戒せずば、只た叫びて死すとも可也。

○傑士は小學校を去らん

市町村公立の小學校教師役目は、今后、判任官を以て遇せらるゝと。カイルハウのペスタロッチは、妾を置き月給に衣食する人の下に立たざる可らざる乎。馬鹿〳〵し。傑士は之より公立小學校に留まらじ。

○少年大ひに養ふべし

今日の如き世には、黃金、虛名、地位、經歷等最上の權力を有すと思ふものあり。かゝる言語は、弱良心の徒の言ふべきもの也。今日の世ほど、偉人物が事を爲し易きの時はあらず。さゝぐものありとも矛とに反對するにあらず、少しづゝ毀つものありとも刃向ふものはあらず。方今、もし智德完備の偉人出では、必らずや、大事を成さん。人も之を待ち、天も之を助けんとす。少年何んぞ大ひに養なはざる。細々として小智に入り、豪骨を軟らめて風流に委す、何んぞ奮慨の氣象乏しきや。

○佳人

佳人よ、佳人よ。大丈夫を愛せ、大丈夫を愛せ、大丈夫は、汝等が愛によりて出で來るなり。大志を抱き、邦家百才の爲に苦學する人こそ、卿等が友なれ。一死を万眼の裏に定め、日本國の爲め眞に痛歎する人こそ、卿等が夫なれ。公もし生て反らば、義に勝ちて返れ、男子の廉恥を破りて歸家あらば、我良人はすでに死せる也と。パンテアは卿等が友なれ。

女報

可愛子編

●大地震に付ての女報（其二）

●悲歎交も迫る　其夫久しく病に在り、大震の前日阿娘其孫を伴て病状を訪ひ來ろ、一泊夢覺むれば大地激浪の如し、驚き飛んで戸外に出づ、娘は空手にして母は孫を背にせり、而して該に病者を顧みるに遑あらざるなり、既にして地獄惨ひ病者妻を呼ぶの聲頻なり、妻之を助けんと欲し再び內に入る、躍身一瞬大梁は落下して母孫の背に在り、無惨相重なりて死す●又一婦あり、年廿七、病夫を看護し、其子を養ひ一心千碎甚た力む、大震の日妻は爐火を活し粥を炊たりしに響一聲、地一震、突如右手に夫を扶け、左手に子を抱き將さに戶外に逃れんとせしに、家は一搖り搖りて猛然たる響の中に倒れたり、家倒れ火起る親子三人果して如何、火消えて猶ほ之を見ず、隣人相集りて焦土を搜れば憐むべし親子三人相抱て一處に死せんとは●忽然天地震動す、母驚起し、次室に寢たる兒を救ふて出でんとす、火既に家を圍めり、看る〳〵震動の中に燒死す、黒き骨のみとなりて、猶其子を抱く、離さんと欲するも離れず●又夫あり孕める其妻を救はんとして共に壓死す●妙齡の女子、老ひたる父を火中に救はんと欲し、逃るゝと能はず、身を以て父を掩ひ、憐れにも燒死せり●嗚呼慘は誠に慘なり、哀は誠に哀なりと雖も其美くしき勇ましき精神擧動は、凜として永世滅せざるなり、誰か云ふ人間元と是れ利己的の動物なりと、僞學者千百の空論は、此等不幸の男女が死期の一擧動に於て消滅さる。

●路傍の貧民　尾州小田井堤の邊、病める一貧民あり、明治女學校の女生二氏、通りかゝりて懇切に慰め、且つ諭して曰く、失望すると勿れ、御身の心を正しうせば、神は必ず之を惠み給はんと、其肩を按摩し、且つ女學校生徒の赤心より出でたる足袋、袖無半天等を與ふ、彼れ淚を流し、聲を顫はし、合掌して感謝せり、行き過ぎけるが、念佛の聲遙かにまで聽へたり。

●熱病の婦人を見舞ふ　震災の不幸に、かてゝ加へて熱病に罹れる貧女あり、人皆怖れて訪ふ者なし、明治女學校の一女生行きて親切に看護し、慰護す、貧女泣き、手を合せて女生を拜し、人にあらず佛なるべしといへりとぞ、女生歸校の日まで每日之を見舞ひたり、感謝して曰く、熱病の我身に傳染せざる、全く神を信ずるが故なりと。

●明治女學校一女生の母　にして感ずべき人あり、地震の時、其子の病に侍してあり、家震動して勢ひ急なり、而して病者起つと能はず、遂に死を決して共に動かず、幸にして家倒れず、身安きを得。

●兩陛下の御救恤　今回の福井縣下非常震災に付、天皇、皇后兩陛下より金千圓下賜相成りしに由り、目下救恤の補助に充つべき旨を同縣へ達せられたりと。

●皇太后陛下の御救恤　同陛下には西京より御還啓の道すがら、去る十四日熱田にて御休憩の節、岩村愛知縣知事を御前に召させられ、罹災地の實況を御下問あり御救恤として金千圓を下賜されたり。

●華族女學校生徒の優しき心　去る十三日は第六回開校紀念日につき、例に依り式を擧げ生徒三百餘名へ菓子を賜ひしが、此度愛知岐阜兩縣下震災の慘狀を聞き右賜與の菓子を悉皆罹災の者に贈り度と、生徒一同より願出でしにつき、校長は其意を嘉容しこれを麵包に換へ（總計一千斤）之を滊車便を以て廻送し、其配與方を兩縣知事に依賴したりと。

●東京女學館　虎の門內なる東京女學館にては、岐阜愛知兩縣下の罹災者へ大人小兒の衣服數百枚を寄與せんとて、教師生徒申合せ目下同館裁縫室に於て袷、綿入、羽織襦袢等の裁縫最中なりと。

●東京府高等女學校生徒一同　は愛知、岐阜兩縣下震災に付、各自應分の義捐金を送りし由。

●跡見女學校　小石川柳町なる跡見女學校の生徒數百名も應分の義捐をなさんと昨今取纏中。

●明治女學校生徒　は我社員が急に震災地に出發するに托せんとして、一日一夜の間に生徒各々志に應じて衣類雜品百七十余品を集めたり、該品は社員と同校生徒二名同道し愛知の災民に與へ、其他は岐阜縣廳に依賴して、同縣下の災民に與ふるとをとせり。

●東京音樂學校義捐音樂會　該校卒業生等の組織せる同好會にては去る十五日震災義捐音樂會を催せり、當日切符は十錢千五十枚（此金百五圓）三十錢百五十枚（此金七十五圓）都合千三百枚なりしが悉皆賣切れたりといふ、無料切符諸雜費等を差引くも百餘圓は義捐に供せらるゝ見込のよし。

●府下小學校の男女生徒　にして義捐金を出す者多し。

●故新嶋氏の夫人と小崎夫人　は同志社男女學校生徒の有志より出でたる衣類及金員を携へ、災害地に赴かれ、實地視察の上、夫々手を盡されたり。

●醫師と看病婦　去一日同志社病院長ベリン氏は同醫師堀俊三氏及看病婦三人を率ゐて大垣に至り、今に其地にあり六日迄に治療を加へしは、三百人以上生徒にして假病院を助けし者廿餘名。

●衣服夜具　同志社女學校にては卅五圓の義捐金を以て反物を購ひ、又古着の義捐を募り二日間同課を廢して全校裁縫に從事、衣服百〇一、夜具廿八、短衣五十三、襦袢シャツ七十三、帶二十二、手拭卅三、足袋廿六、雜品九十三點を調へ、百有餘點の古着に加えて大垣に送れり。

●岩倉公爵夫人　は金五十圓を義捐せり。

●各貴夫人の惠恤　岐阜縣下震災救恤の爲に去る九日子爵樺山夫人外二名より、有合の古着類中より綿衣着物十三枚、浴衣二枚、綿入袖無六枚、襦袢廿四枚、肩掛二枚、股引四足、足袋十一足を同縣廳に送り、配賦方を依賴したりと、又同夫人及び高嶋土方の各夫人より、鹽鮭數十本、干物數千枚を同樣惠恤の爲め送附したりと云ふ。

●三宮夫人の義捐物品　三宮式部次長の夫人八重野子（伊國人）は、今回尾濃地方震災罹災者に惠恤せんが大め、自から罹災者物品寄贈世話人と爲りて人々に物品を勸誘せられたるに、續々寄贈するものあり、既に數回岐阜愛知兩縣知事へ送致したり、去る十一日震災地へ送りたる物品の中には、女子教育奬勵會教員生徒よりの新規物衣類其他七十七品も加はりありたりと。

●慈善の擧　此度の震災に關し米國公使館書記たるホイトニー氏は早くも醫師と看病夫とに金數百圓を齎らして直に出張負傷者を治療看病せしめ、婦人矯風會員は醫師一名看病婦二名を送り、又た東京築地孤育院は當時尾濃巡視中の明治女學校教師星野愼之輔氏に托して多くの不幸なる孤兒を連れ歸らんとを依賴し、播州龍野の孤兒院主富井定助氏も、二三十名迄は孤兒を救育せんとて其旨を府下の女學雜誌社に依賴したり（新聞拔萃）。

●英國婦人の賑恤　永田町大山邸に住する英國人カークス夫人は、震災地罹災者が凍餒の狀を聞きて取敢へず金若干を送りたるが尙ほ又此程より數名裁縫師をして綿衣五百枚を製せしめ、飯倉聖會堂幹事ショウ氏に托して去る十四日震災地に輸送したり。

●罹災者救護　東京慈惠院より罹災者救護の爲めに此程出張せし醫員五人、看護婦十八、藥劑師一人は目下愛知中島の兩郡に奔走中なるが、尙七日醫員一人看護婦六人を應援として出張せしめたり。

●日本赤十字社　にては理事員常議員及篤志看護婦人會員より、慰問の微意を表する爲め病衣千百枚兩縣下負傷者に贈達せられたり。

●基督教徒有志震災救助會　にては第一期（本月十日まで）に金百七圓三十七錢七厘を震災地へ義捐したり、其中には女子學院キングスドウターの金十圓、外に同學院より出せし十一圓三十三錢七厘の金も入りてあり。

●大日本婦人衞生會の義捐　同會にては岐、愛二縣の罹災人へ晒木綿百反を送り、其の施與方を二縣知事へ願ひ出せしが、鐵道廳にては右の運送を無賃にて取計ひたるよしなり。

●山梨婦人會員　は震災地へ金三圓を寄附したり。

●伊豫今治少年禁酒矯風會　は此度の地震の災地なる愛知、岐阜兩縣へ金二圓五十錢を寄送したり。

●慈善看護婦　小石川區巢鴨仲の町の宮城縣士族野坂春子四十は基督教を奉ずる人なるが震災地の負傷者を看護せんとて尾濃地方へ赴きし由。

●岡山孤兒院の慈悲　同院にては今般愛知、岐阜兩縣罹災者の內にて、親を失ひ兄弟を失ひ賴るべき便りなき孤兒を養育せんが爲めに、特に小長谷某氏を派遣したるよしなるが、同氏は直に被害各地を歷訪し親に別れて泣居る孤兒を受取ること既に百餘名に及びしと。

●震災追悼慈善會　島田まさ子、松本榮子、小方富喜子の三氏が去る十二日帝國ホテルにて開きたる同會は贊成者も非常に多く、明治女學校生徒のピヤノ及唱歌もありたり、當日集りたる慈善金は五百四十一圓五十七錢五厘諸雜費を引き去り四百圓を罹災者に寄送するとさせり、此會に於て各國公使館に贊成者多く露西亞公使は最も速かに贊成し五十圓を寄附せられ、支那公使は二十圓（先きに每日新聞社に已に百圓を寄附せし上なり）獨逸公使は二十五圓、其他佛蘭西伊太利公使館にも夫れ〳〵義捐あり、殊に帝國ホテルが無料にて席を貸したるは近頃の美擧なり。

●慈善音樂會の義捐金　罹災者救助として神田美以教會青年有志者が發起となり、去る六日神田錦町の錦輝館に催したる慈善音樂會の收入金は百四十餘圓に上りしを以て、內七十圓餘は實費の支拂方に當て七十五圓丈け取敢へず既に二縣へ宛寄送せしよしなるが、尙ほ精算の上にて殘金を送る都合なりと云ふ。

●鹿鳴館貴婦人慈善會の結果　去る十二日より三日間鹿鳴館に於て催したる慈惠院慈善會の物品賣上高は十二、十三の兩日に金六千百二十圓、十四日の分は見積千三百圓此外入場券を呈したる向より上る金額四百圓、茶店の上高五百圓にて總計金八千三百二十圓、內物品購入を差引きたる殘殘高六千七百圓は全く震災窮民へ配當するものなれども、夫れにては大海に一滴の水を投するど同樣にて何の效も見えざるべければ右は震災患者治療費に充つるとを、皇后陛下に奏上の上、決定せし由。

●橫濱婦人慈善會の義擧　橫濱婦人慈善會に於ては今度罹災者の爲め會長以下會員一同大に奮發し、過日來晝夜奔走內外慈善家の門を叩き金圓物品の義捐を仰ぎ、去る七日第一回として大小綿入百〇七枚、單衣卅枚、下衣百卅二枚、羽織十枚、服引廿五本、足袋百足、毛布卅枚、洋服十五對、繃帶用木綿五十反、其他雜品廿六品、外に現金七十五圓を會長稻垣すえ子、副長バンベテレン夫人該地に持參せり、其後二宮わか子會長代理となり會員諸姉と共に百方周旋盡力せしに、巨多の義捐者あり中にも居留地六十番館カイロー氏の如は三百圓を寄附せられたり、依て全會にては聖經女學校を初めとして、共立女學校、フエリス女學校、英和女學校、搜眞女學校に衣類製造方を依賴せしに、皆學課を休み夜の目も錄々眠らずと之を勸められたり、然れども至急を要することとて中々數百を調ふるは容易ならざるを以て、東京より古衣數百を買ひ求め去る十日迄には二回三回已に五回迄衣類千七百餘品を寄送せり、美以教會宣敎師トレバー氏の老母の如き、下婢雇人を指

揮して衣類五十餘品を新調之を寄せ、外國貴紳紳商の夫人令孃等も之等に感じ、昨今二人三人互々隊をなし暫く在留外人の許に至りて義捐を促し全會に寄附して引續き續々送らんと非常の盡力中なり。

●震災救助慈善音樂會　基督教青年會と婦人親和會とが發起せし同會は、去る十一日本郷春木町中央會堂に開かれたり。

●女髮結連の義捐　山の手の女髮結連も一日の稼ぎ高を義捐する事にせんと奔走せる者ありと。

●紡績絲の落付　今回の震災にして紡績會社に被害を及したるものは第一に尾張紡績にして、此れに次ぐは大阪紡績會社にして、兩社の製絲を市場に賣出す迄には多少の時日を要すべく、左れば兩所にて製する部分は目先き品切なること勿論なれば、各紡績絲の價格を强むると同時に無雜なる興業會社の株券は騰貴すべき理屈なるにも拘はらず、三重、鐘ヶ淵、東京等の各紡績株の直取引も依然として變化なく、僅に三五十錢の强氣あるも之れとて敢て今般の影響とも思はれず、又製絲も震災已前とは大坂製品にて一圓方、東京其他は一時四五十錢方の氣配上げはなしたれども、先行の附かざるより目下は矢張り震災前と同格にて概れ一個に付七十二三圓搦みに往來せり、右は畢竟尾濃兩地の各機場に被害の夥しかりし爲め同所供給の大部分を失ひたると府下近縣の各機場も割合に機增の景氣あらざるより、需用供給の釣合に丁度平均を保ちたるにぞ、斯く落付きしものならむと。

●大坂、尾張の紡績株　東京株式取引所に於ける大坂尾張兩紡績株の直取引は殆んど皆無の有樣にて、詰り大坂名古屋の報道に依り直段を左右し居る程なれば、相場として見る程のものならず、之を震災以前に比較すれば去る十六日迄に三十一圓拂込の尾張紡績株は十六圓方、百圓拂込の大坂株は十四圓方の落込にて最早大概底を突きしが、併し大坂は尾張と異なれば先途の望みも早かるべけれど、尾張紡績の損害は名狀し難き聞へもあれば再興の方法次第猶一段の變化を示すも圖り難しとなり。

●府下の小新聞中には　公然と藝娼妓の名前と假名を記し、其義捐を吹聽せるものあり●又吉原幇間の慈善芝居ありと聞くを惜む、義捐の美舉も、此輩の爲めに汚さる、藝娼妓幇間たる者、其身分と耻辱を思はざるか、小新聞は之を吹聽するに當りて、如何に社會の道德を卑くするかを思はざるか、アヽ慨するに堪へたり、此光景。

●何事ぞ此輕薄淫靡なる　今回の大地震は實に上帝が國民を警醒するの鞭なり、吾人は孔子が迅雷風烈必變といへる風采を想望し、轉た謹愼ならんとを欲す、何ぞ知らん、上聖天子皇后陛下を始め奉り、幾萬の義人、自ら謹み、且他を惠むの際、震災地四面慘怛の中、貴顯紳士にして、妓を聘し、娼に戯るゝ者あらんとは、何ぞ計らん、名古屋下等娼廓に、商家の番頭及び若年の男子が、毎夜交代夜番の間を偸んで、又職人車夫等が不意の儲を好機として、娼を買ふ者多からんとは、醒めよ、彼等の迷夢、彼等は此日本をば、日々危地に引き込まんとする爲なり、嗚呼誰か實に國の爲めに泣く義人何くに在る、廢娼の聲は一層高からざるべからず、愛國者は一層多からざるべからず。

●老嫗天恩の辱きに泣く　陛下の命を奉じ震災地を巡視中なる北條侍從、一日名古屋市橘の口町の好生館に於て親しく震災負傷者を訪ふ、老嫗あり、頭傷枕を離るゝ能はず看護者侍從の巡檢せらるゝを告ぐるに至り、忽然起座合掌頂禮感涙幾十滴曰く此樣な有難きこと復とあらじ妾死すとも何をか怨みんと。

●武士氣質　名古屋は、德川御三家の一なる舊藩なり、大垣も亦た相當の高取りなりし、左れば今回の震災者中には今尙ほ昔の氣質を失はざるもの多く、彼等は今や非常の慘境に沈淪し居るも百姓同樣に糊口の難澁を申出で焚出米を受くるを屑しとせず、縱ひ身は食なくして餓死するとも家内の人數や財産の有無等を取調ぶるなど面倒なる手續をして救助米を受くる耻に優さると覺悟を極め居るものありて、折角救助米の恩澤も廉耻節操なき細民の口腹を滿たすに止まり、正廉直實の人は之れを被らざるの憾あり、且つ又右等士族中には各地募集の義捐金中に藝娼妓の名前あるを見て、如何に災害の爲め難澁すればとて非人同樣なる藝娼妓輩の不潔なる金錢は受けたくなしとて、縣知事に向ひ斯る義捐金を受けざる樣申出でんと協議し居るものありとか、武士は武士だけ廉潔の心情昔し氣質はさもこそあるらめ。(中外電報)。

●震災地に巡回せし社員　星野愼之助、川合信水、二人は、去る十五日朝歸京す。

●御還啓　皇太后陛下には御豫定の通り、去る十六日午後二時十五分新橋着の汽車にて恙なく御還啓遊ばされたり、當日は、皇后陛下、皇太子殿下を始め皇族大臣其他奉迎の人々雲霞の如くなりし。

●三條令孃の輿入　故三條公爵の愛孃知惠子は、年齡四歲にして跡見花蹊の門に入り、後洋學は某御雇教師の教授を受け、和漢洋學共に秀でらるゝとは世人の知る所なるが、今度閑院宮載仁親王殿下と御結婚の約整ひ、去る十五日目出度輿入ありし由。

●女子高等師範學校長　は今回文武高等官々職等級表公布せられしに付て、勅任三等、一級俸となりたり。

●幼稚園保姆の集會　去る十四日京都下京區第十三尋常小學校に於て、上下京區幼稚園の保姆一同集會し、當日問題は幼稚園教育法に關する件及び今回震災地方へ對し保姆會中より應分の金圓を募集し義捐するとを議したりと。

●奈良縣下私立學校の女生　は目下百六十四人ありといふ。

●稗史小說撿閱標準　內務省にては稗史小說の撿閱には當局者をして充分嚴密に取調べをなす內規なりしが、此程其標準は一層箇條を增加し風俗壞亂と認め得ら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ろいものは、直ちに發賣を禁じ毫も容赦せざるとさなれりと云ふ。

●廢娼演說會　去る十四日山梨縣北巨摩郡韮崎驛蓬莱坐に於て開會。

●札幌婦人慈善會　去る三日、同會は北海道札幌小樽等の淑女達が催しに係り、昨年第一會を開きたるが、天長節に際し又第二會を札幌に開きたりしに非常なる盛況にして寄附賣揚金高も多かりしと。

●南海今治通信　●當地高等學校の女子部と、基督教婦人會は追々盛大なり。
○佛教者にて婦人會を設立したれど、追々衰弱の方なり。
○今治高等小學校女生徒の中、有志者二三名は、少年婦人矯風會を設立せんと、目下盡力中。

●ビスマーク夫人は重症に罹り快復六ヶしかるべく、ビ公は大に憂慮せりと。

●離婚改革同盟部め運動　紐育府サラトガにて開かれたるユニテリアン公會々議に於ては公立離婚改革同盟部に於て會員を增撰せんを欲すさのリヴァーモーア夫人の發議を異議なく經過せしめたり。即同夫人會場に起ち告て曰く、結婚及離婚の問題は其關係に於ては男女さも一樣にして互に輕重あるなし、然るに此問題に關して不完不正なる法律は之が爲に男子に見ざる困難を女子幷に小兒のみに感ぜしむ、故に本會は公立離婚改革同盟部は其素志を遂せんが爲には更に有識にして經驗ある婦人を增撰せざる可らざるを決議せりと。而して公立統計局長カロルライト氏は結婚及離婚に關する報告をなせり。

●コロラド州女代言人　同州セントラル街なるストインベルグトマス夫人は同州高等法院の代言者さして認可せられたり。數年前其長人トマス氏は法律家たられども同州の憲法中法律家たらざるも法官たるを得るさ云ふ箇條あるを以てギルビン郡の地方法官に撰任せられたり、後初めて氏は熱心に法律を學び初めぬ。夫人は此學に心を傾け遂に共に學び同時に同等の試驗を經、亦共に代言者たらん事を出願せり。當時トマス氏は異議なく許可せられしも、夫人が請求に就ては大に議論を生じ遂に不認可さなり、後千八百八十三年カンサス州の一婦人等しくコロラド高等法院に同樣の主張をせしも遂に不認可さなりぬ。然るに當今の法官の二人は其後死し其が補欠者は大に此黨の保護者たりしなり以て今日は此寛なる決議を見るに至れりさ云ふ。

●生物保護會　英國なる同會はセルボルン會さ稱へ、テニメン卿の會長にしてクリスチアン內親王殿下之が書記たり、其が主眼たるや、獸類野禽及植物の類を無益に亡命せしむるとを保護し禽鳥幷に其が羽翼を裝飾の用に供し或は此目的の爲に禽鳥を捕獲するを業さする者などを禁止せしむるが爲なり。此會より發兌する「爲す勿れ」さ號する小雑誌は嘗て曰らく、一小島を以て身を裝ひたるものは其が課罪さして種々の小島の三乃至四千万數の一年中の犧牲さして捐金するも猶足らずさ云ひ。又ある雑誌は魚鷹もて飾するの非常に殘忍なるとを述たり、そは此鳥は白鷺或は着鷺の類にして即春季孵化しては此魚鷹に依て養はるゝなり、然るに此幼鳥を獲て以て裝飾さして利を得んが爲に先ツ此母鳥を捕殺し幼鳥をして餓死せしむるの手段なればなり。

●日本風建築の舞踏會　チユードルハート夫人は去る九月廿四日夫人の令姉の誕長日を祝せんが爲樂しき舞踏會を催されたり、而して舞踏室の體裁殊に壁塗はボルシメン氏の衛になり全く日本風の構造にして珍らしかりしさ云ふ。

●スタンレー氏　十月一日龍動發刊の紙上に曰く、同氏井に夫人がオーストラリアに向ひ發足の日定まりぬさ。即十月七日メルボルン行龍動出帆のアルカデア號にして當今ブラッセルなる白耳義皇帝及皇后陛下に告別の謁見を仰付られぬ、而して氏等は十一日に同號がプリンヂシに來るを待て乘込む都合故其以后再び英京へは來らざるべしさ。

●婦人理髮業　同業に關しては種々の議論あり、ある日ウェルシュの討論會に於て此議出で一方にては非常なる反對あり、又一方にては酒店女などには適當の業ならんなざ賛成するものもありて、遂に採决に至りて贊成者八人にして五人は之に反對せりさ云ふ。

品名	十一月十九日
白米（一圓ニ付）	
一等米	斗升合 九三
二等米	九五
三等米	九七
四等米	九九
五等米	一〇五
正米（一圓ニ付）	
越中米	斗升合 一三二
越後米	一二八
庄內米	一二八
南部米	一三七
土浦米	一二七
雜穀（一圓ニ付）	
本貫大麥	斗升合 二六〇
上州小麥	一七五
竹林麥	一七〇
梅澤大豆	二〇〇
青柳大豆	一九〇
吟小豆	一七〇
白胡麻	一二八
黑胡麻	一七〇
鹽（一圓ニ付）	
赤穗	俵 三〇七
大鹽	三一七
本齋	四九五
新齋	五四〇
醬油（一圓ニ付）最上・極上・上物・中物・並物	分厘 七五　九五　八七　一、一〇　一、二五　一、五五　一、七二　一、八七　二、〇五　二、五〇
味噌（一圓ニ付）	
地製上白	貫 六、七〇〇
同上赤	六、七〇〇
同紅赤	四、二〇〇

品名	十一月十九日
眞綿（一個ニ付）	
上々入金	円 一二〇、〇〇
上入金	一一三、〇〇
並入金	一〇六、〇〇
松入金	一〇五、〇〇
竹入金	一〇〇、〇〇
梅入金	九二、〇〇
濱縮緬（百目ニ付）	
大巾上馴	円 五、一〇
小巾百廿目立	五、五〇
同並物	五、〇〇
六丈絹猩々紅	
五十目立	円 五、五〇
糸吉生絹（一円ニ付）	
六十目附	匁 二七、〇〇
七十目附	二七、〇〇
八十目附	二八、〇〇
百目附	二八、〇〇
木綿冬縞（一反ニ付）	
糸入愛國縞	円 一、二〇
瓦斯二子縞	一、二〇
同羽二重縞	一、七〇
伊勢改良縞	七〇
同糸入縞	一、〇七
物產縞	七八
笠井糸入縞	一、〇〇
佐織茶縞	六〇
同糸入縞	六六
白木綿（一円ニ付）	
玉鶴	反 三四五
綾鶴	三七五
日の出鶴	四〇五
若柳	三〇〇
稻岡	三三五
蓬萊	三九五
間銘	三七〇

品名	十一月十九日
製茶（一貫目ニ付）	
山城江州稀大頭	円 二、五〇
同稀頭	二、一五
同大頭	一、八〇
同中頭	一、五三
同中茶	一、二二
狹山稀大頭	二、〇五
同稀頭	一、七五
同大頭	一、四〇
同中頭	一、三〇
同中茶	一、〇〇
乾海苔（百枚ニ付）洲崎・大森・深川砂村・大師潮田・上總	円 七〇　一、〇〇　二三　一、〇〇　三二　一、〇〇　二二　七五　四五　六五
鰹節（十貫目ニ付）	
土佐上	円 二四、〇〇
薩摩大	二三、〇〇
伊豆上	二四、〇〇
城の腰上	二一、〇〇
房總上	二〇、〇〇
銚子上	一九、〇〇
水油（一樽ニ付）	
地水	円 七、〇〇
胡麻	一〇、四〇
荏油	一〇、〇〇
桐油	六、〇〇
綿油	七、八八
坂水	七、九二
石油（一箱ニ付）	
チヤスター	円 一、五〇
デボース	一、四九
ホーキ	一、五一
ロシヤ	一、四七

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

巖本善治妻 譯

(リツトル。ロ―ド。フホントルロイ)

小公子

小供のよみ本

新版出る 十日發賣 少年文學書

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遥する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かおさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですネイ、と申たとか。考えて見ますと、美事に發育すべきものを遮ざり、素直に生ひ立つ筈の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御坐り升。邪道に陷らふとする父の足をとゞめ、卑屈に流れ行く母の心に高傑の德を思ひ起させるは、神聖なる大職を擔ふ可愛の幼兒に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故此珍重すべきまろうどを尙一層優待したいと切に願ふ者です」と。斯る主意にて譯成る。原著は近頃英米に轟き渡り、子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髮の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回、且尙ほ劇に演して非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ、紙數二百八十頁密書十四箇入の大本として今日世に進め玉へり。一冊正價三十八錢。郵税八錢也

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

小公子の評（其一）

●若松志づ子の「小公子」を讀む

紫山人

曩に女學雜誌に連載して同好の喝采を博したる、志づ子女史の「小公子前篇」美麗華煥の被服を粧ひ、一部の冊子となッて此の頃坊間に躍り出でぬ、巖本善治君紹介して一本を我社の中井錦城に贈り批評を囑す、錦城頃日政論に多事なり亦剪紅栽綠の事に拘るの暇なきを以て轉じて僕に代評を托さる、夫れ代豚あるものは大いに先生の手術に異なり、されば病者感情を害することも亦從ッて少しとせず、而して僕今代豚を勤む、病者の地位に立つ女史の失望兼ては巖本君が紹介の勞徒らの如くになりて、甚だ氣の毒に堪へざれども、唯り最も喜ぶべきは女史が襁褓劬勞したる「小公子」は最も愛すべき健兒にして、虫氣一ッだになき無病息災のぼッちやまなれば、假令先生が診察して代豚が頭を捻ッても、無病は無病あり、健康は健康といふより外亦一匕の投ずべき藥なきを奈何せん、巖本君安心せよ、女史氣を落すなかれ。

然れども人は疾病の器なり、胃病肺病も疾病なれば面痤疣も亦疾病なり、されば是れ箇の可憐可愛の小公子、素より膏肓二豎に惱せらるゝ患なしと雖も四万八千毛髮の間亦一豆の疣半影の面痤なしとせずさりながら是れは代豚不鍛練なる僕が診たる所、或は之を先生に見せなば、天晴見事ある五跡の粧飾と見立つるかも知れず、女史よ巖本君よ幸ひに之を意に介せず、いよ〳〵珍重保育して、早く後篇の時代にまで此の可憐なる「小公子」を成人せしめよ。

疣とは何ぞ、面痤とは何ぞ、乞ふ僕をして診察書を作らしめよ。

號を逐ふて連揭し、號に逐はれて譯述したるものなれば、之を責めるは無理かは知らねど、行文の間前後其趣きを異にするが如きあるは一の瑕疵なり、例へば「おッかさんに聞いて知ッて居ました」とか「おとッさんがお亡ありなさッてから」とか、「その通りにして上ると」とか小公子自ら己れの經歷を

叙するが如き文法を用ゆるかと思へば忽ち筆を轉じて然うでもない様に思はるゝ、文勢となる、概して云へば此の一篇は文章の上よりすれば、自他混淆支離滅裂と云はれても蓋し辨疏の辭なきに苦むなるべし、然れども是れ君が家の文法、さうした所に價値が有るのかも知れず？。

此の自他混淆も多くの最初の十數葉中にある如くなれど、追々進み行くに從ッて弊自然に少なくなり、用墊適切讀者をして身其境に臨ましむるが如き心を抱かしむる所少なからず、して見れば女史は矢張能文健筆のお方なり？。

女史より巖本君よ、僕が然く文章の上に於て長短評するの無禮の咎むるを休めよ、その故何ぞや、此の小説の世界は元外人を脳中より描き出したるものなれば、今力めて其趣向を評し專ら其理想を論ずるも是非褒貶責は原作者にあり、女史に於ては……ヤゝ風馬牛の感なしともせざるべし、僕が彼に寛くして此に嚴なるは蓋し此の故なり。

僕は最とも女史が原作の意を尊して緩急勉めて之に離れざらん樣に心掛けたる用意の深きを重んず、然れども女史は亦如何にもして我邦人の一際を博せんとする野心の痕を留めたり、例へば（十八頁）世間の人達が小公子セドリックが高尚にして可愛氣なるを賞す言葉に「丸で華族の若様の様だ」と書きしは何故ぞ、成程此の言葉は我國か英國人などには一切の讃辭かは知らねど、貴賤無差別の米國に於て安んぞ王侯將相に種わるを知らんや。

セドリックが老侯爵の前にてヒッギンスに與ふる一書を認たむるに當り「差控ふべし」の上に（何卒）といふ意が添へてありました、さうして終に（フォントルロイ敬白）と記してありました（後の對話長ければ略す）則に是れ殺人的の滑稽、多涙多恨の好滑稽、我國の近松竹田等常に之を以て人を泣かしめ人を感ぜしむるの秘訣となしたり、之を要するに此の可憐無邪氣の小公子は無病息災の若様なり、僕が診て以て悦あり而痙ありとなしたるものは、代脈と見て引込ました羊羹の復歸となさば可なり、女史何の恨むる所あらん、巖本君また何の怒る所あらんや、嗚呼近時出色絶倫の飜譯小説、小公子万歳！しづ子女史及び巖本君大万歳!!!

（十一月十五日讀賣新聞）

●小公子

若松しづ子女史譯
女學雜誌社發兌

此書は可憐なる小公子フォントルロイが頑固なる祖父の侯爵の心を和げ、之を善に導くことを叙述し、小童の社會に對する感化力を顯はしたる道德小說なり、我邦近來少年文學の書多しと雖、或は高尚に過ぎ、或は鄙俗に失し、中庸を得たるもの少し、此小公子の如きは其弊を免かれたり、余輩は我邦少年文學の爲めに此の如き好書を得たるを喜ぶ。

（經濟雜誌第五百九十八號）

●答書

矢崎氏（嵯峨の舍おむろ）の來書左の如し。

謹啓林間に酒をあたゝめ紅葉を燒の好時節と相成候折柄愈御清適奉欣賀候昨日御令閨御譯述の小公子一冊御惠投難有領收仕候今夕燈下に拜見仕候一讀卷を措くに暇なく卷尾まで讀終申候一讀の所にては唯セドリック及其母に同感を持ちつゝ何の考もなく殆んど其人と共に身自ら實況に對するの思ひ致候是勿論作者が人情の微を穿つ技倆あるに據ると一は御令閨の筆毫も文飾に力を得ず最も直率に最も平易に淡々筆を染められしに據るものと敬伏仕候他日機會を得て御令閨樣に得拜顔度ものに御坐候尚宜敷御鶴聲併せて賜を感謝たてまつり候

十一月十五日　草々不一

矢崎鎭四郎

●答書

巖谷氏（漣山人）の答書左の如し

拜啓秋冷の砌彌々御清康大賀此事に奉存候さて今日は御令閨御新作惠贈の榮を得難有奉存候躰裁の優美なる近來多く見ざる處此まづ敬服致し候本文はいづれゆる／＼拜見可仕候先は取あへず御禮まで　早々不備

巖谷季雄

十五日　窟　漣拜

偶書

「小公子」を讀む

思軒居士

昨日女學雜誌の巖本君「小公子」一冊を寄せらる曰く吾が内子の譯する所と。

淡泊に直言すれば余は方今海内にありて女流の著述にして能く我眼を惹くべきもの出でむとは想はず故に此書に於ても亦た甚だ重きを置かず但た知人の贈りたるものなるがゆえに偶ま煙を喫するの暇漫然其の第一ペーヂを開き視しのみ而るに讀むこと數行にして遣辭温順太はだ常に非るものあるを覺えたり因て更に二三ペーヂを讀みゆくに彌よ益す凡ならざるものあるが如し是に於て心頗る驚き起ちて書筒を探り原本を取り來りて且讀み且照らし終に第一回を竟はりたり是日の務畢るを待ち携て寓室に歸り直ちに燈を掲けて之を讀む既に業を卒りて尚ほ飽かず又た原本に就て此書の未た譯し及はざる第七回以往を讀み小公子の第八誕辰を看了りて寢に入れるときは夜既に三時を報せり。

「小公子」は英國今代の名家バルチット夫人の傑作「リットル、ロード、フオントルロイ」を譯せるもの全篇十五回あり是は先づ前半第六回に至るまでを以て一冊となせるなり後年の功を成すも蓋し遠きにあらざらむ歟。

原作の何物たるは其書の既に十數板を重ねたると屢ば之を英米諸國の劇場に演するとを以ても其の一斑を想ふへし余は特に斯の可憐なる女學士の譯文を言はむ。

請ふ余が詞の不敬なるを咎むる莫かれ余は第一に譯者が英文を讀むの容易なる猶ほ父母の手紙を讀むがごときに感ず世間鬚眉男子にして尚且つ往々謬り讀む成語イヂオム悉く熟路をたどるが如し故に之を邦語に飜へすに及て極めて明白極めて透徹些しの晦澁些しの沮滯あることとなきなり。

尤も服する所は談話ダイアロクなり貞正なる淑女英爽なる童子鄙俚なる村婢萬やの主人靴みがきの少年恣睢我慢なる老侯爵給仕御者牧師佃戸聲容歷々として活現せむとす流石に下等賤民の詞は女學士か常に親接せざる所なれは其甚だ勉めたるに拘はらず概して尚ほ二三分の憾を遺す者あるに似たり然れとも此外は殊にヒロー小公子の詞の若きは工夫力量實に十二分といふべし余が之を讀むとき讀みて妙絕の處に至る每に誦して家人に聞かしむるに家人は皆な針を停め眶をうるほして之を傾聽せり而して之を原文に參じへ考るに敢て一字を增さず敢て一字を損せず只た忠誠に謹勅に原文を摸せるなり。

其記述敘事の處も亦温順妥當にして毫も生硬殊更にせるが如き迹を見ず諄々として而もくだくだしからず原文を嚴守して而かも拘づらひ泥まず平易復た簡淨殆と遺憾なきに近し。

世間の謂ゆる言文一致躰に由る者にして余が心より服せるものの唯た「浮雲」ありしのみ今日此書を獲て二となれり熟ら世間の謂ゆる言文一致を事とするものを觀るに縱ひ巧みならざるまでも一應尋常の文は之をかくとを能くするにあらざる者なし唯た或は奇を好むより或は自ら樹立する所あるより強ひて勉めて之を爲すなり故に必す其間にありありて斧鑿の痕ありて自然の美を欠かざるもの希れなり獨り譯者に至ては斯の一躰より以外には復た文あるを知らざるが如く滿身の文才滿身の物かく技能は强ひず勉めず自然此躰に聚注せるものに似たり試に渠の文を看よ信のみ實のみ一點のヤマなし一點のケレンなし謂ゆる塲當りキザ氣に至ては毫も之を見ることとなきなり是れ故さらに言文一致を事とする者の決して企つ能はざる所なり蓋し優しく柔良なる女性の天質に由りて自ら然る歟。

之を總ふるに女學士は一個の譯者として最も先づ具ざる可らざる同情シムパシーを饒有せり故に其かく所深切到底而かも筆墨の表常に藹然たるものあるなり是れ其本たる固より作者バルチット夫人が篇中の有らゆる人物に向て悉く一團の和氣を以て相接するに出づると雖も亦た譯者が其の作者必同情に同化して筆墨を用ゆるの致す所と謂はざる可らず。

余は從來我が藝林にユーモア殊にパセチックユーモアの游笑

評判の妙趣を寫すに適したる筆墨乏しきを恨みたり譯文に至て特に然りき而るに今ま此の譯文を閲るに譯者は或は能く之れを爲すべし余は此書の後半出づるとき刮目して第十一回「亞米利加にての掛念」を讀まむ。

譯者が第二回の後半を割きて之を第三回に合せたるは何の爲めにする所ありてなるやを怪しむ小公子がより〳〵詞を訛まるを記するに説明をセイメイといはしむるは少しく穩やかならざるに似たり別に恰好の語なきや。

余が此書を讀みて得たる第一の訓誡は曰く「爾、爾が男子なるの故を以て女流の著述を輕視すると勿れ」、十一月十三日。（報知新聞）

小公子

譯者かし子此書の卷頭に序して云へらく

幼子の心は神の古ろに叶ふものとか聞けり、此世のほかの答はいかなる書を引くにもあらず、身を以て多くの家庭に幸福を與ふべし、此書の主人公なる幼子は又世の仕向けに對して生涯嫌はれし家内を、些も悪しと思はずの心よりて和らげ、其處にありし事によりて利益を受け、其外までも此幼子の遇に接しては凡て心をやはらげ、此上きの精に到らんこそ深くなすれ（以下割注略）

是れ女たる優美の心を具へて母たる慈愛の情に富むものにあらずんば云ふ能はざる所なり此書小公子は譯者かし子が胸中に燃立つ如き優美慈愛の心情迸り出でたる一端ならんか譯者は幼子を推して渦世の蓮花家庭の天使と云へりしが余は此小册を披いて卑猥なる小説界の蓮花天使ともたゝへなん唯憾むらくは此書手柄の過なきかを疑ふ何となれば譯者は此書を以て廣く幼子に趣味を與へんとするに此書譯巧妙に過ぎて寧むもの日本の文字を味ふよりも寧ろ西洋の文意を玩ぶの感あれば也り譯者は家庭の幼子達を喜ばしめんとするに此書は寧ろ下宿屋の二階に家庭を作り出し荒くれ書生を泣かしむるの分子多ければなり是を換言せば此書は讀み聽かさるゝ幼子よりも寧ろ讀み聽かす母親に感動を與ふる分子多ければなり聰是れ強て其の失を求むるのみ好んで理屈をつくるのみ此書の行はるゝ處に蓮花麗はしく開き此書の讀まるゝ家庭に天使樂しく舞はん（十一月十七日、中央新聞）

女學雜誌社出版書目

著者	書名	册數	價
鈴木弘恭大人述	つれ〳〵草講義	一册	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一册	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一册（改正）	上三十五錢 並二十八錢
船越鼎太郎君著	産婦小兒攝生法	一册	金十六錢
關輪正路君録	ひめ鑑	一册	同四十五錢
中島俊子君著	善惡之岐	一册	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一册	同十六錢
島田三郎、植木枝盛両君演説	廢娼演說	一册	同五錢
巖本善治君述	妓樓全廢	一册	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一册	同四錢
農學士齋尾應三作者	植物學	一册	同十二錢
林學生星野但之介作者	昆虫標本金石採集法	一册	同十錢
明治女學校教師八木稲長作者	和[illegible]手本	四册	同一圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八册	同四十錢
巖本善治作者	給子小傳	一册	同八錢
訓蒙繪双紙	猫と鼠	一册	同五錢

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

帝國大學教授デクソン氏同チヤンバレン氏序
第一高等中學校教授井上十吉氏校閲
國民英學會主幹磯邊彌一郎講述

沙翁 人肉質入裁判講義錄 全

法庭之塲（原文附）定價金十三錢外ニ郵税二錢
シエクスピヤ氏ノ人肉質入裁判ハ氏ガ喜劇中ノ隨一ニシテ殊ニ其法庭ノ塲ハ妙絶快絶全篇ノ骨子タリ今ヤ英文學流行ノ機運ニ向フ眞ニ我國ノ爲メニ祝スベキ也本會夙ニ英文學普及ノ志ヲ抱キ其講義錄發刊ノ企アリ先ヅ本書ヲ發行シ以テ世上獨學者ノ師友タラシム

神田區錦町一丁目十二番地 國民英學會
賣捌所 通三丁目丸善書店 裏神保町三省堂 表神保町中西屋 錦町吉岡書店等

鈴木弘恭著
活語略圖 折本一冊 正價金五錢 郵税金貳錢
右は國語を學ぶには尤も輕便にして無類の良書なり
賣捌所 神田區淡路町一丁目一番地 敬文堂
麹町區下六番町六番地 女學雜誌社

十六歳前後の下婢一名至急雇ひ入たし但し修學時間を與ふ
芝南佐久間町三丁目信濃屋方 吉本

第三版
百人一首講義
上製美本 三十五錢 郵税六錢
並製淡裝 二十八錢 同 四錢
清秋の讀書に宜し 遺物に宜し
歌留多遊びに宜し 詠歌に宜し
女學雜誌社

當十九日より五日間賣上利益を岐阜愛知の罹災者に喜捨せんとす慈善に厚き貴孃紳士御購求を乞ふ當日は御禮として割引切符を呈す●日本唯一の色白劑艶の素定價小瓶卅錢大瓶五十錢特製一圓
本舖 神田末廣町十三番 艶の家
特約販賣店京橋銀座三松澤●日本橋上槇町安川●同小網町四黑澤●本鄕五丁目高島堂

産科往診廣告
晝夜ヲ論セス東京市内ノ姙婦産婦ヲ往診ス
但報酬等ヲ要セズ
本鄕區元富士町 醫科大學第一醫院

女學雜誌取次賣捌所

東京々橋區尾張町二丁目東海堂　仝神田武藏屋　仝京橋區彌
左衞門町巖々堂　仝京橋小西新聞舖　仝京橋區木挽町一丁目
万字堂　仝神田錦町三丁目五番地朝陽堂　仝芝櫻川町萬春堂
神戸元町四丁目福音舍　大阪東區備後町四丁目岡島支店
京都佛光寺通烏丸東へ入ル東枝律書房　熊本市南新坪井町草
野書店　大阪土佐堀三丁目福音社　盛岡市中橋通東北堂　東京
都河原町二條下ル二丁目大黑屋　宇都宮日野町小林格　神戸
下山手通三丁目望榮堂

雜誌定價

一冊	六錢	郵税○五厘（但府内無郵税）
十一冊	五拾八錢	郵税○五錢（同前）
半年分	壹圓四拾六錢	府外は 壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は 貳圓八拾六錢

東京市麹町區下六番町六番地
發行所 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

庚寅新誌第四十二號　十一月十六日發兌

本號社說 **日本人民**の覺眠劑及び**卑怯**なる勿れ**自由黨未練**なる勿れ**改進黨**の二篇大に世を警醒し**論說**には寺島宗則伯の卓見**經濟論**に付世人の疑を辨すの一篇**既に政黨**の本色部如何ぞ政黨內閣を望まんと題する藤田二峯君の雄論と相反映して光輝發然たり**史傳**には菊池武德君譯にかゝる那破翁島物語と題する一篇事實秀拔文章輕快興味無量**評林**にはハウス氏日本枝術品の聚集方に就ての注意と知らるゝ評論甚だ銳利にして甚密なり**雜錄**玄々道人の健筆に成れる詳細にして時節柄人の須く一讀せらるゝ可き所の**歐羅巴**に於ける**地震談**あり加之米國政況一斑朝廷の御料佛國々會略史の諸篇あり**譚海**四件皆例の如く讀者を抱腹せしむ**寄書**には三輪鶴松君の地震に感して成れる論文あり**小說**ノヽ山人の特得なる才筆にて奇搆を綴り**三銃士**と題して面白味無限の一篇あり**文花**蝸牛盧主人の秋聲廬記外詩數首**批評**吉田松陰傳細評益密に入り外一篇あり**木鐸挿畫**は例の如く妙を極め**時評**は寸鐵殺人妙ある切痛なる評論なり

一冊前金郵稅共六錢五厘
○半ヶ年同前金七十六錢

發行所　東京々橋區八官町十七番地　**庚寅新誌社**

去月廿八日に發りたる震災の最も恐惶すべき慘境に陷りたるものは愛知岐阜の兩縣下を以て實に劇甚なりとす、今茲に其慘塲の有樣を叙せんとすれば筆戰き紙慄れて其言はんと欲する所を知らず只轟然の鳴動の起るや柱梁瓦石の崩壞頓倒して老幼男女は哀れ此慘劇なる百槌亂降の下に葬らるゝ者幾千人なるを知らず之が爲めに其夫を失ふて寡となり其父兄を亡ふて孤となり道路に彷徨して哀を他人に乞ふに由なきもの幾万人なるを知らず我等此慘境に在て僅に命路を支へ得る者だに之を目擊する每に惻嘆酸鼻に耐へざるなり况んや震災是の如く甚しからざりし地に在るの人にして此事を聞かんか誰れか矜恤の情を動かさゞるものあらん哀れ請ふらくは此罹災者の爲めに靑銅一穴其少を問はず交互沙汰し憐保相募集し積んで之を惠贈する者既に多きに至らば其人を救ふ詎し多きを得ん、嗚呼我等對天の義務として此同胞を此慘境より救ひ出すは分の最も然りとする所ならんか、我等泣血して人類賦天の良心に訴んと欲す。

但し義捐金は多寡に係はらず名古屋市南武平町英和學校丸山愿宛にて御差出被下度候

明治廿四年十一月一日

名古屋教會
美以教會
聖公會
美普教會
愛知教會
組合教會
青年同盟會
岐阜基督教會
同聖公會
同美以教會

裁縫教員廣告

裁縫及造花刺繡毛糸編等出來得る女教員有之候間御入用の御方は左の所に御報知の程を乞ふ

本郷區東竹町廿五番地
和洋裁縫傳習所

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

本號社說日本人民の覺眠劑及び卑怯なる勿れ自由黨未練なる勿れ改進黨の二篇大に世を警醒し論說には寺島宗則伯の卓見經濟論に付世人の疑を辨すの一篇既に政黨の本色部如何ぞ政黨內閣を望まんと題する藤田二峯君の雄論と相反映して光輝發然たり史傳には菊池武德君譯にかゝる那破翁島物語と題する一篇事實秀拔文章輕快興味無量評林にはハウス氏日本枝術品の聚集方に就ての注意と知らる評論甚だ銳利にして甚密なり雜錄玄々道人の健筆に成れる詳細にして時節柄人の須く一讀せらる可き所の歐羅巴に於ける地震談あり加之米國政況一斑朝廷の御料佛國々會略史の諸篇あり譚海四件皆例の如く讀者を抱腹せしむ寄書には三輪鶴松君の地震に感して成れる論文あり小說ノヽ山人の特得なる才筆にて奇搆を綴り三銃士と題して面白味無限の一篇あり文花蝸牛盧主人の秋聲盧記外詩數首批評吉田松陰傳細評益密に入り外一篇あり木鐸挿畫は例の如く妙を極め時評は寸鐵殺人妙ある切痛なる評論なり

一冊前金郵稅共六錢五厘
〇半ヶ年同前金七十六錢

發行所 東京々橋區八官町十七番地 庚寅新誌社

裁縫教員廣告

裁縫及造花刺繡毛糸編等出來得る女教員有之候間御入用の御方は左の所に御報知の程を乞ふ

本鄉區東竹町廿五番地
和洋裁縫傳習所

…月廿八日に發りたる震災の最も恐惶すべき慘境に陷りたるものは愛知岐阜の兩縣下を以て實に劇甚なりとす、今茲に其慘塲の有樣を叙せんとすれば筆戰き紙慄れて其言はんと欲する所を知らず只轟然の鳴動の起るや柱梁瓦石の崩壞頓倒して老幼男女は哀れ此慘劇なる百槌亂降の下に葬らるゝ者幾千人なるを知らず之が爲めに其夫を失ふて寡となり其父兄を亡ふて孤となり道路に彷徨して哀を他人に乞ふに由なきもの幾万人なるを知らず我等此慘境に在て僅に命路を支へ得る者だに之を目擊する毎に惻嘆酸鼻に耐へざるなり況んや震災是の如く甚しからざりし地に在るの人にして此事を聞かんか誰れか矜恤の情を動かさゝるものあらん哀れ請ふらくは此罹災者の爲めに青銅一穴其少を問はず交互沙汰し憐保相募集し積んで之を惠贈する者既に多きに至らば其人を救ふ豈し多きを得ん、嗚呼我等對天の義務として此同胞を此慘境より救ひ出すは分の最も然りとする所ならんか、我等泣血して人類賦大の良心に訴んと欲す。

但し義捐金は多寡に係はらず名古屋市南武平町英和學校丸山愿宛にて御差出被下度候

明治廿四年十一月一日

名古屋教會
美以教會
聖公會
美普教會
愛知教會
組合教會
青年同盟會
岐阜基督教會
同聖公會
同美以教會